第12回総務文教常任委員会会議録

- 1 開会日時 平成26年10月27日（月）午前10時0分
- 2 閉会日時 平成26年10月27日（月）午後2時52分
- 3 会議場所 議会委員会室
- 4 出席委員
1 番 佐々木雄司君 2 番 光成 良充君 3 番 澤 健君
10 番 松田 勲君 11 番 北川 勝義君 16 番 下山 哲司君
18 番 小田百合子君
- 5 欠席委員
な し
- 6 説明のために出席した者
市 長 友實 武則君 副 市 長 内田 慶史君
教 育 長 杉山 高志君 総合政策部長 池本 耕治君
総合政策部参与 小寺 康生君 総 務 部 長 岡本 衛典君
財 務 部 長 近藤 常彦君 教 育 次 長 奥田 智明君
赤坂支所長 正好 尚昭君 熊山支所長 山田 長俊君
吉井支所長 楢原 哲哉君 消 防 本 部 木庭 正宏君
秘書企画課長 徳光 哲也君 消 防 長
総 務 課 長 入矢五和夫君
くらし安全課長 水原 昌彦君 財 政 課 長 直原 平君
管 財 課 長 末本 勝則君 税 務 課 長 藤原 義昭君
収納対策課長 土井 常男君 教育総務課長 藤井 和彦君
学校教育課長 坪井 秀樹君 社会教育課長兼
スポーツ振興課長 前田 正之君
中央図書館長 三宅 康栄君 消 防 本 部 小竹森美宏君
消 防 総 務 課 長
- 7 事務局職員出席者
議会事務局長 富山 義昭君 主 査 大饗 剛君
- 8 協議事項 1) 事業の進捗状況について
2) その他
- 9 議事内容 別紙のとおり

午前10時0分 開会

○委員長（北川勝義君） 皆さんおはようございます。

ただいまから第12回の総務文教常任委員会を開催したいと思います。

開会に先立ち内田副市長のほうから御挨拶をいただきたいと思います。

本日は市長が所用がありまして、県知事との面談があるということで、非常に重大なことであるということで委員会に欠席ということが申し出あります。欠席という遅滞するということですが、終わり次第12時ごろには出てくるんじゃないかと思しますので、それも合わせて報告。

それでは、内田副市長お願いします。

○副市長（内田慶史君） はい、副市長、内田。

○委員長（北川勝義君） はい、内田副市長。

○副市長（内田慶史君） それでは、皆さんおはようございます。

本日は第12回総務文教常任委員会を開催していただきましてありがとうございます。また、委員全員の出席を賜りましてまことにありがとうございます。

現在、執行部におきましては年度の後半時期に差しかかっておりまして、事業の進捗管理、また推進、それから12月議会へ向けての諸準備等々をしているところでございます。きょうはそういったところの御報告や説明をさせていただきますので、どうぞ慎重審議のほどよろしくお願いをいたしたいと思っております。

なお、先ほど委員長のほうからも話がございましたように、市長のほうも知事に面会ということで若干おくれたの出席になりますけれども、御了承のほどひとつよろしくお願いをいたしたいと思っております。

以上でございます。よろしくお願いをいたします。

○委員長（北川勝義君） ありがとうございます。

それでは、これから協議事項に入りたいと思っております。

1の事業の進捗状況についてを議題としたいと思います。

執行部のほうから説明を願いたいと思っております。

○秘書企画課長（徳光哲也君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、徳光課長。

○秘書企画課長（徳光哲也君） それでは、総合政策部の資料をごらんください。

前回の委員会におきまして、片鉄バスの運行状況について報告してくださいということでございましたので、本日はその報告をさせていただきたいというふうに思います。

資料1ページめくっていただきまして、備前片鉄バス、これは片鉄、片上から周匝の間でございますけれども、この運行状況につきまして報告をさせていただきます。

まず1点目としまして、現行の運行ダイヤでございます。

別紙ということで、1枚おはぐりをいただきたいと思っております。

平成25年10月1日の改正でございますが、これによりまして平日月曜から金曜の運行につきましては、上り下り4往復計8便が運行いたしております。上りにつきましては片鉄、片上から周匝に向かう便、これが上りというふうになっております。それから、土曜日の運行でございますけれども、これは上下合わせて4便、2往復ということになっております。

なお、夏休み期間中8月1日から8月31日につきましては月曜から金曜の運行につきましても土曜日のダイヤで運行をいたしております。また、土曜日、祝日につきましては運休というふうになっております。

次に、利用状況でございます。ページでいいますと、3ページ、4ページのほうをごらんください。

これは、実際にバスのほうに乗車をいたしまして、居住地あるいは職業、利用目的等々を調査をいたしたものでございます。3ページのほうは2市1町を取りまとめたものになっております。また、4ページには赤磐市の状況を一覽にいたしております。

本年度の調査につきましては、6月5日の木曜日から7日の土曜日にかけて3日間の調査をいたしております。調査期間が少ないためにちょっとばらつきが大きくなっているところもございますが、この全体状況を見ますと3日間、全部で20便になりますが、乗車人数が22人、したがって1便あたりは1.1人ということになっております。また、居住地で見ますと赤磐市の利用者が約4割、主な利用者につきましては学生が36%ということで、ほぼ毎日通学に利用しているという状況になっております。

4ページのほうをごらんいただきますと、赤磐市での利用状況を記載をさせていただいておりますが、これも学生が3分の2ほど通学に毎日利用しているというふうになっております。今後につきましても、通勤、通学、あるいは病院への通院者にとりましては重要な交通機関というふうに考えておまして、利用促進並びに利便性の向上に向けて努力をしていきたいというふうに思っております。

それから、もう一度1ページのほうに戻っていただきまして、現在の運行費にかかわる部分でございます。

これにつきましては平成25年度の運行分、これが業者のほうから実績報告が出てきておりますので、そのほうでちょっと詳細を見ていきたいと思いますが、25年度運行分につきましては平成24年10月1日から平成25年9月30日までの運行ということで、総利用者数が1万4,804人、収入が利用者からの収入が466万円、1人あたり315円になります。運行経費につきましては3,589万6,000円、これは1人あたり2,425円程度になります。損益でございますが、収入から経費を差し引きますと3,123万6,000円の赤字と、マイナスということになりまして1人あたり2,110円程度のマイナス要因となっております。

なお、2市1町の負担金でございますが、25年度分としまして2,540万円ということで、これは1人あたり1,716円程度ということでございます。直近でいいますと、26年度の運行分に

つきましては、利用者数が1万2,944人、2市1町の負担金が2,029万円ということで、1人当たり1,566円程度になっております。

この片上鉄道沿線地域活性化対策協議会からの負担金の推移でございますけれども、5ページのほうをごらんください。

少し表が字が小さくて見にくくて申しわけございませんけれども、平成10年度からの負担金の推移を各町、市別に上げさせていただいております。当初、平成10年度からは協議会の負担金が2,100万円で、基本的には各市町の均等割という形になっておりましたが、これには例えば備前市でありますと旧吉永町、旧日生町等も一部負担をしているということで、10年からは負担金をお支払いをいただいております。

また、平成15年度からでございますが、こちらにつきましては一応均等割が90%、それから距離割を10%というふうな負担割合に改めまして、それぞれの市町から負担をいただいております。これが19年度までその負担割合が続いております。平成20年度からでございますけれども、これにつきましては美咲町がこの協議会のバス運行事業から撤退をしたということでございまして、負担割合を再度協議をいたしまして20年度からは各市町の協議によりまして負担割合を決定をいたしております。そして、24年度からです。申しわけありません、24年度からが美咲町が運行事業から撤退ということで、また負担金の見直しをいたしております。

現在の負担金率でございますけれども、備前市が20.47%、それから和気町が53.15%、赤磐市が26.38%の負担割合で現在負担をいたしております。これに基づきまして平成26年度の負担金につきましては、本年の10月22日の協議会総会におきまして赤磐市負担金分、535万3,000円と決定をいたしております。

また、この率でいきますと、次年度、平成27年度分でございますが、これは次回総会において最終的には決定をされますが、現在の負担率でいきますと総額が2,058万円と見込まれておりまして、赤磐市負担分は542万9,000円となる見込みでございます。

なお、先回の委員会でも御報告申し上げましたけれども、備前市が平成27年9月30日をもってこの運行事業から撤退をするということになります。それ以後の運行形態等につきましては現在のところ未定ということになっております。

以上が備前片鉄バスの運行状況でございます。

次に、その他として上げさせていただいております、資料のほうはございませんが、2点ほど報告をさせていただきます。

まず1点目でございますけれども、別紙でお配りをいたしております映画のチラシの件でございます。

「種まく旅人3」ということで、2015年に撮影に入るということでございまして、現在こういったチラシをつくりましてPRをしていきたいというふうに思っております。このチラシによりまして映画への雰囲気醸成を図るというふうなことも考えておりまして、さきの11月3

日でございますが、あかいわ祭りにおきましてこのチラシと、それから第2作のPR用のバッグをいただいておりますので、これを配布いたしましてロケ地としての機運を盛り上げていきたいというふうに考えております。また、チラシの下の部分にホームページのアドレスと、それからQRコードを載せておりますけれども、チラシとあわせまして今後ホームページ等でも製作過程、状況等についても発信をしていきたいというふうに考えております。

それから2点目でございますが、赤磐市制10周年記念式典につきましてでございます。

現在、各市町におきまして10周年であるとか、何周年であるとかの記念式典等々が行われておりまして、本市におきましても来年3月7日に10周年を迎えるということでございまして、いろいろ諸般等の事情等々を考慮しながら、現在では3月の下旬ぐらいに記念式典を実施したいというふうに考えております。これに伴いまして、予算の組み替えや追加等々お願いすることもあるかもしれませんが、原案等がまとまりましたらまた委員会のほうにも御報告、御相談をさせていただきたいというふうに思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

総合政策部からは以上でございます。

○委員長（北川勝義君） 続いて。

水原課長。

○くらし安全課長（水原昌彦君） くらし安全課のほうから2点御報告いたします。

総務部資料2枚目のほうをごらんいただきたいと思ひます。

1件目につきましては、緊急地震速報訓練実施に向けての報告です。

平成26年11月5日水曜日、午前10時ごろ、全国瞬時警報システムJ-ALERTを活用した緊急地震速報訓練を実施いたします。今回の訓練は、地震発生時に机の下に身を隠したり手で頭を覆うなど、地震発生直後の初動訓練を市役所や学校等で実施する予定としております。なお、市民の方への周知は広報あかいわ11月号、市ホームページ、防災無線等でお知らせをいたします。

続きまして、総務部資料3枚目のほうをごらんいただきたいと思ひます。

1点目は、平成26年度赤磐市総合防災訓練の実施についての御報告でございます。

平成26年11月23日日曜日、午前9時30分から、高陽中学校をメイン会場として、南海トラフを震源とするマグニチュード9.1クラスの地震が発生し、赤磐市においては最大震度6弱を観測したとの想定で情報収集訓練、伝達訓練、初動対応訓練、災害対応訓練、被災者支援訓練、ライフライン等復旧訓練を実施いたします。

委員の皆様方には後ほど御案内申し上げますが、当日視閲いただきますようよろしくお願ひいたします。

以上でございます。

○委員長（北川勝義君） 続いて。

○財政課長（直原 平君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、直原課長。

○財政課長（直原 平君） 財政課のほうからは1点、そこにお示ししております赤磐市桜が丘東地域整備基金につきまして御報告を申し上げたいと思いますけれども、その前に1点、9月の委員会におきまして、説明の中で吉井地域の事業に充てます過疎債の事業充当率を95%と申し上げておりましたけれども、正確には100%の充当率でございます。訂正させていただきますとともに大変申しわけございませんでした。

それでは、添付しております資料の桜が丘地域の整備基金の用途について御説明をしたいと思いますけれども、設置目的につきましてはそこに、条例の第1条を示しております。この基金条例につきましては、大和ハウス工業から桜が丘東地域の公共施設維持管理及び環境保全に係るための開発分担金を平成21年に歳入したことによりまして、それをもとに基金として積み立てまして、桜が丘東地域の移管事業実施の財源、桜が丘東地域に限った運用を図るために基金を設けたものでございます。

その経緯につきましては、その下に書いておりますのでごらんになっていただけたらと思いますけれども、これを創設いたしました平成21年度以降、積立金を利用いたしまして桜が丘東地域の未施工の公園整備、それから児童公園、その他小学校予定地の草刈り、環境保全の事業を市が直接行っておるものでございます。基金残高をそこに付けておりますけれども、21年から25年度につきましては利子を積み立てるとともに、順次取り崩しを行いまして移管事業の未実施分、また草刈り等に充てておるのが現状でございます。

簡単でございますけれども、基金の説明をさせていただきます。

○委員長（北川勝義君） 次に。

○教育次長（奥田智明君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 奥田次長。

○教育次長（奥田智明君） 教育委員会からそれぞれ担当課のほうから、ちょっと多くなりますけれども要点を踏まえた説明をさせていただきたいと思います。

○教育総務課長（藤井和彦君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○教育総務課長（藤井和彦君） 教育委員会の資料の1ページをごらんください。

ひかり幼稚園の新築工事の竣工式を12月22日月曜日で計画しております。全体の工程表をお示ししておりますけれども、現在新園舎の建設工事を進めておりまして、外構工事を含めました全体工程は2月末でございますけれども、園舎については12月に完成検査、引き渡しを受ける予定でございます。

年明けの1月から新園舎での運営を開始するために、冬休みの期間を活用いたしまして引越しをする予定でございます。その前に竣工式をとり行いたいというふうに考えております。日時につきましては12月22日月曜日、午前10時から計画しております。時間的には施設の見学

を含めまして1時間程度と考えております。正式には文書で御案内申し上げますけれども、御多忙とは存じますが何とぞ御臨席賜りますようよろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

○学校教育課長（坪井秀樹君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、課長。

○学校教育課長（坪井秀樹君） それでは、3ページをごらんください。

平成26年度学力・学習状況調査、赤磐市の状況について報告をさせていただきます。

3ページにつきましては、赤磐市のホームページに掲載する平成26年度国と県の学力・学習状況調査結果並びに赤磐市の今後の取り組みについて、ホームページ掲載用の表紙の原稿でございます。

一番下に全国学力調査、岡山県学力調査、質問紙調査、今後の取り組みと書いてありますけれども、そこをクリックすることによって4ページ以降が表示されるようになっております。具体的な内容としましては、全国学力調査の分析結果、県の学力調査の分析結果、そして赤磐市の子供たちに課題のある特徴的な問題文を載せております。これが4ページから13ページまででございます。

14ページ以降につきましては、質問紙調査から明らかになった赤磐の子供たちのよさ、逆に質問紙から出てきた赤磐の子供たちの課題を載せております。そして、それが14ページから17ページでございます。

そして、最後に、18ページ以降に、現在赤磐市が進めております赤磐市学力向上アクションプランと、今年度の調査結果を受けて緊急に徹底しなければならないことを20ページに示しております。本日は白黒の印刷ですが、ホームページではカラーで掲載しておりますので色を分けて説明はさせていただきます。

以上が学力・学習状況調査結果の報告でございます。

続きまして、平成25年度児童・生徒の問題行動等に関する調査結果についてでございます。

21ページをごらんください。

昨年度、平成25年度の児童・生徒の問題行動等、生徒指導上の諸問題に関する調査の結果について説明します。

1番目のいじめについてですが、いじめの認知件数は減少をしております。引き続きいじめの未然防止や早期発見、早期対応に努めてまいります。今後については、インターネットやスマートフォンなどの携帯端末を利用する上でのマナー向上や保護者への啓発を推進していく必要があると考えております。

次に、2番の暴力行為についてですが、昨年度より件数では大きな変化はありません。これは校内で組織対応の徹底を図ったり、個別の支援による心のケアを図ったりしたことが一定の効果を上げていると考えられます。中学校においては、同じ生徒の繰り返しによるものが含ま

れており、今後とも毅然とした指導と心に寄り添う指導を両輪として指導を徹底するとともに、警察を初め関係機関とも連携して対応に当たりたいと考えています。

次に、3番目の不登校についてですが、児童・生徒の生活習慣の改善、教育相談体制の充実、初期対応の徹底等によって一定の成果が見られてまいりました。しかしながら、依然として中学校の不登校出現率は高い状態にあります。今後不登校の未然防止対策と不登校児童・生徒の自立支援の充実に努めてまいります。なお、22ページにつきましては、先般の新聞報道にありました県下の市町村別の結果でございます。

以上、今回の調査結果について説明をいたしました。

最後に、学校教育課から23ページ、頑張る学校応援事業優良実践校の決定について報告をいたします。

10月17日金曜日に、岡山県教育委員会は県内の30の小中学校、一部中学校区が入りますけれども、を頑張る学校応援事業優良実践校と決定しました。赤磐市は山陽西小学校、石相小学校、高陽中学校の3校が選定されました。選定理由は多くの教育課題を抱えて、厳しい状況の中で学校の課題に即した創意工夫や学校全体の組織的な取り組み、地域と一体となった取り組みなどが効果的に行われ、学力や問題行動等の改善に成果が見られたことによるものです。

特に、山陽西小学校においては学校組織全体で学校の荒れを克服しました。石相小学校は特別支援教育の視点で事業改善に取り組み学力も向上しました。高陽中学校は特色のある生徒会活動により問題行動が減少しました。応援費は各校に交付され、優良実践校の取り組みのさらなる充実に資するために使われます。現在は、優良校に対して県へ応援費活用計画書を提出するように指示しているところであります。

なお、今後は市内3校だけでなく、県下の優良校の取り組みを市内に普及させていきたいと考えております。

学校教育課からは以上です。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（前田正之君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、前田課長。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（前田正之君） それでは、スポーツ振興課のほうから吉井B&G海洋センターの指定管理者制度の方向性について御説明をさせていただきます。資料はございません。

7月、9月の当委員会におきまして、施設状況であるとか利用者の意向、類似施設の例、経済的効果、指定管理料、応募資格等を御説明させていただきました。その中でさまざまな御意見をいただきましたが、中でも平成27年4月から増額改正することになっている施設利用料金について、約半年程度の利用者状況を見て必要があれば見直しを検討することにしておりますので、この利用料の問題を解決しないまま5年間の指定管理者制度の導入は到底理解できないという御意見をいただきました。そういった今までの御意見等を検討した結果、指定管理者の

募集時期については平成27年7月以降、約半年程度の状況を見て、この利用料金の見直しを含めた問題を解決した後にしなければならないと現在考えております。こういった形で今後進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたしたいと思っております。

以上です。

○委員長（北川勝義君） はい、三宅館長。

○中央図書館長（三宅康栄君） 失礼いたします。

図書館のほうから指定管理者制度の検討に係る先進図書館の視察について、こちらの御報告をさせていただきます。赤磐市立図書館では財政健全化アクションプランに係る指定管理者制度の導入に関する検討のため、今回7つの図書館を視察させていただきました。視察先図書館とそれぞれの図書館のサービス状況などにつきましては、本日の資料としてお手元にお届けさせていただきますので、そちらをごらんください。

なお、指定先7館の内訳は、指定管理者導入館が6館、それらの管理業者は図書館流通センターが5館、カルチュア・コンビニエンス・クラブCCCが1館、また導入の検討をしたが導入せずと決定し直営で運営してる館が1館です。

これらを視察させていただきました、導入によるメリットといたしまして、まず導入している全ての図書館が上げているのが開館時間の延長、休館日の削減及び指定管理期間内の資料費の確保、さらに多くのメディアに取り上げられたことにより広告の効果が大きく、今まで図書館に来ることがなかった人が多く来館している。また、販売用の図書、雑誌を書店で自由に書架で読むことができるため、新しく出版された資料なども予約しなくてもすぐに読めるなどがメリットでした。

また、デメリットとして、こちらはスキルを積んだ職員がいなくなったため、調査研究などのレファレンス力が低下した。さらに、指定管理業者が変更になることにより新しい業者に引き継がれたスタッフもいるが、業者が変更になることで全てのやり方が変わってしまい、またゼロからの新しいスタートになってしまった。さらに、指定業者の運営評価の手法が確立されていないため運営に関する評価が難しい。また、図書館の基本である地域の知の拠点という役割が難しい。外部団体との連携、また市政の反映や事業の継続が難しいなどがございました。

視察から見えてきたこれらを踏まえた上で、現在これからの赤磐市の図書館について運営の方法をさまざまに考えながら検討を進めさせていただいております。

なお、あわせてもう一件御報告させていただきます。

先日、10月22日に図書館協議会を開いていただき、赤磐市立図書館のこれからの目指すべき姿についてということで委員の方に御協議いただきました。これから先の指定管理者制度の導入については、先日のこれからの図書館の目指す姿について、これもあわせて検討をしながら、その上で赤磐市の図書館について指定管理者の導入がいいのかどうかを検討していきたいと考えております。

以上です。

○教育総務課長（藤井和彦君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、藤井課長。

○教育総務課長（藤井和彦君） 教育総務課から1件追加でお願いいたします。

表題には入れておりませんが、別紙で認定こども園の新聞記事について説明を申し上げます。

10月25日土曜日の山陽新聞に、赤坂地域の公立3保育園の統合施設を認定こども園とする考えを厚生常任委員会で示したという記事が掲載されております。認定こども園につきましては、御存じのように幼稚園と保育園の機能をあわせ持つ施設でございます。赤磐市としては保育園が教育機能を持つ保育所型とする方向ということで、法的には児童福祉施設に位置づけられているものでございます。平成29年度の開園を目指すということでございまして、幼稚園の部分がありますので、今後幼稚園の保育料等との調整等も含めまして検討が必要になってまいります。

また、児童福祉施設でありますので子育て支援課のほう为主体となって準備を進めてまいりますけれども、平成29年度に円滑に開園できるよう教育委員会といたしましても連携、協力をしていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○教育次長（奥田智明君） 委員長、一つお断りをさせていただきます。

○委員長（北川勝義君） 教育次長。

○教育次長（奥田智明君） 私のミスでございまして、頑張る学校の応援事業、このほうの取り組み内容をそれぞれのことを口頭で課長のほうが申し上げましたが、先ほど事務局のほうから新聞のコピーを配らせていただきました。内容的にはこうなっております。申しわけございませんでした。

○委員長（北川勝義君） 続いて。

○消防本部消防総務課長（小竹森美宏君） 委員長、消防総務課小竹森です。

○委員長（北川勝義君） はい、小竹森課長。

○消防本部消防総務課長（小竹森美宏君） 消防本部から2件報告をさせていただきます。

まず初めに、資料のほう1ページをお開きください。

市長の専決処分の報告になります。

- 1、事件名、救急自動車の交通事故に関する損害賠償の決定及び和解。
- 2、事件発生日、平成25年4月12日。
- 3、専決処分年月日、平成26年10月8日。
- 4、発生場所、津山市河辺1150番地8先路上、（国道53号線国分寺交差点）になります。
- 5としまして、救急車の所属ですが、赤磐市消防署北出張所になります。

6、相手方、勝田郡内の男性です。

7、損害額につきましては、市が147万円、相手方が17万6,000円になります。

8、責任割合ですが、市が20%、相手方が80%となっております。

9の賠償金ですが、3万5,200円となっております。

事件の概要につきましては、平成25年4月12日午前10時20分ごろ、国道53号線津山市国分寺交差点内において赤信号で北進中の救急自動車と、青信号で東進中の軽四貨物自動車が衝突し、双方の車両が損傷したものです。搬送中の傷病者には影響はございませんでした。

なお、本件につきましては、12月議会に報告案件として上程させていただく予定としております。

続きまして、2ページからになりますけれども、赤磐市消防団協力事業所表示制度実施要綱の制定について報告させていただきます。

第7回の委員会で御説明いたしました消防団協力事業所表示制度につきまして、赤磐市消防団協力事業所表示制度実施要綱を制定し、平成26年9月1日から施行いたしましたので御報告いたします。詳細につきましては、3ページからになります資料のほうを御確認お願いいたします。

なお、本件につきましては年度内事業所の勧誘等を行いまして、年明けに交付ができればというふうに考えております。

以上です。

○委員長（北川勝義君） 執行部のほうから説明が終わりました。委員の皆さん、何か質問ありませんか。

これにつきましては、一応原則的に説明があった順番に総合政策部、財政というような順番で行かせていただきたいと思いますので、1番の総合政策部の宇野バス運行状況、その他について質問がありましたらお願いしたいと思います。

はい、佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） おはようございます。

バスの運行状況について細かく数字を上げていただいて御説明をいただいたんですが、私これ聞いておりましたしてショックなんです。1名当たりのコストが2,425円、これに対して計上負担のほうがお一人当たり2,110円要するということですね。ここら辺のところを今後どういうぐあいに考えていらっしゃるのか、この2,110円というものを軽減するためにどういう方策をお考えになられているのか。ただ継続したいんですよと、その気持ちはわかりますけどお金があつての物種なものですから、そこら辺の考えというものがどういったものを用意いただいているのか。こういったものを御提出いただくという限りには何らかの対案というものをお持ちの上でこの場に出していただいているんだと思いますので、当然お持ちだと思います。そこら辺のところをお考えをお聞きしたいと思います。

○委員長（北川勝義君） はい、徳光課長。

○秘書企画課長（徳光哲也君） ごらんいただきましたように、非常に運行経費がかかっているのは事実でございます。資料の5ページ目をごらんいただければと思いますが、運行輸送人数を把握いたしております平成14年度から本年度に至りますまで、当初は10万人程度の利用がございましたが、年々利用者数が減ってきている数字が見てとれます。この多くはやはり通学に使われてます高校生が非常に少なくなってきたというのが非常に大きな要因というふうに考えております。今現在でも少数ではありますがでも高校生の方が通学にこのバスを利用しているということございまして、高校生あるいは高齢者の車を運転されない方等にとっては公共交通として非常に重要な路線というふうに位置づけられるというふうに思います。運行経費がかかっているのはごらんのように事実でございまして、当然さきに言いました高校生の減少というのが一番の大きい要因ではございますけれども、新たな需要を見出すというのはなかなか困難なところがございます。

しかしながら、そういった交通弱者のためにはかなりの経費がかかるわけでございますけれども、基本的には路線を維持していきたいというふうには考えております。今後も啓発ということ、あるいは利用しやすい時間の見直しというふうなことも考えていかなければなりませんけれども、なかなかアンケート調査でもお聞きをいたしたわけでございますが、現在の時間であれば周匝の方面から和気に出て、それから和気から岡山方面に行くのは困難な時間というようなこともありますので、そういったところも検討しながら少しでも利用しやすい時間帯等も検討していきたいと思っております。

また……。

○委員（佐々木雄司君） いいよ、わかった。

○委員長（北川勝義君） 佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） 詳しく御説明ありがとうございました。済みません、僕が何を尋ねをしているのかといいましたら、そんなことは詳しくはわかりませんが道理で考えたらわかり得る範囲でありまして、僕が何を言いたいのかといいましたら、その高校生の話にしましても、共産党さんのほうからは赤磐市は高校がないので市外に通われる高校生のために通学補助の一部免除を考えてはどうかというようなお話もあったわけですよ。

そういったところを考えましたら、これは通学補助というような考え方で今後お考えになっていかれたらいいのではないかなと私自身も思っているんですが、とすればここだけをするんですか、それとも全体的に考えていくんですかというところのお考えを示していただかなければなりませんよねと。こういうお話を聞いてしたかったわけなんですよ。ですので、途中で御説明を遮って大変恐縮でありましたけど、そこら辺のお考えというのを改めて示していただいでよろしいでしょうか。

○委員長（北川勝義君） 佐々木委員、今聞かれとることは全体に関連でいいと思うんです

が、先ほど私のほうが備前バスの片鉄バスじゃ言わにゃおえんのを宇野バス言うたんでちょっとそこは訂正しておきますが、先ほど言われたのはこれ片鉄の備前バスの関係なんで、そこんところを重点的にやっていただきたいと思う。それから、その次の今佐々木委員が言われたようなことの抜本的な全体的なことになるんじゃないかと思いますんで、そのことについては答弁は徳光課長が担当課長のレベルでできる話じゃないと思うとりますんで、これは議長も運営協議会出られて、しきりにやかましゅう言うたら言い方悪いですけど、厳しく発言しとることもありますんで、ちょっとこれについては後に回してもらいてえと。

○委員（佐々木雄司君） はい、わかりました。

○委員長（北川勝義君） それで、ちょっと待ってください。実はいろいろありまして、3つほどあるんでちょっと私のほうから言わせとってください。

1つは、柵原、英田、佐伯、和気、吉井、片鉄沿線の片鉄が走った始発というた、起点の柵原町から備前市までの間の運行なんです。これが片鉄がなくなるということで、その中で今は2市2町ということが今脱退して2市1町になつとんですけど、いろんなことでやるということになりました。その中で県も補助金を出すということでやってきたということで、第一は汽車がなくなるということで、廃線になるということで、その足の確保ということで交通弱者、それからもちろん学生等やるということが出ておりましたが、結果的には先ほど徳光課長のほうが説明がありましたように、24年から美咲町が通学者が高校生がないのでやめさせていただくという、脱退するというので、こういうことを認めてきた市町村、県もふがない、腹が立っております、非常に、叱りました。

そして、今年度の27年の来年度からは負担金は出しますが備前市がまた勝手にやめると、これは組合議会とか、広域のことを何ら考えてない、本当ろくでもない市町村長です。これはもう僕は絶えず言っております。今回も火葬場の組合の中で、英田、柵原、吉井火葬場組合のことでこのことも指摘しております。

その中で、なぜこのようになるというたら運行の時間帯が悪いんです。これは荒嶋町長のときから荒嶋市長になったときも、空気ばかり運んどるようなのが目立つんです、昼のときは誰もいないというのが。当時、そのときは鶴飼谷温泉バスというのがありました。鶴飼谷温泉もあって両方行くということもあつたんでしょうが、現状見てもほとんど時間帯のときは本当空気と言ひ方したらおかしいけど、人間が乗っておりません。それで、岡山県からも補助金が出んようになりました。それから、美咲町もやめました。そうなればだんだん負担がふえてきております。その中で運行時間をやはり乗らないときは考えるということを考えにゃおえんのですよ。前あつたから同じように運行時間、そりゃ運転手さんは楽ですわ、誰も乗らんときは。こういう運行時間じゃない、乗るときの運行時間を考えていただきたいんですよ。

それからもう一点は、運行時間を考える中で高校生が乗らない、これは乗らないんですよ。これ岡山県で一番高いバス路線なんですよ。私も娘を2人同時に年子でして、和気高へ通わせ

ていたときに本当に定期代といや大変なお金で一番高いとこです。学生、今共産党さんが言われたとかどこ、我々も言うておりました。下山さんもおられて、ずっと吉井でも言うておりました。助成しちゃうというふうないろいろあったけど、なかなかこれ自体が助成ということで来ておりましたが、時間帯がクラブをしても間に合わんのんです。早く帰るんです、バスが、乗れないんです。

時間帯をだから考えてほしい。しきりに下山委員が言われておる、もう30分遅うすりゃ乗れるんです。来んからまた迎えに行くということになるんで、やはりそこらを考えていただくとか。それから、これはもうはっきり言うて備作高校もなくなって和気高になったんで、特に必要なことになつとんで、そこんとこをどういう考え方しとるかかわからんのですが、議長の方にはお願いしとんのは、活性化の協議会の方でもこういうことになったらほんまに皆さんが県のほうにお願いも行ってくださいというお願いもしとんです。幸いにうちの小田議長もわかって、こんなことは納得できないというて大分抗議してくださつとりますが、やめるというのをよそのとこまで干渉いろいろありますけど、これからは今後のことをこのバスについてはどういうことをやるかというのを考えていったら時間帯の変更も必要なんじゃないか、要らないとこはカットすりゃ安うできるんじゃないかということもあると思います。こういうことをやっぱり盛り込んでいただきたいと思うんですよ。

それから、日曜、祝日を運休をやってないんです。じゃったら、よう考えてくださいよ。広域バスの穂崎から湯郷行つとるのは、林野行つとるのは日曜も祭日もないですよ。皆やりようりますよ、昼。赤磐と美咲町と美作市か、やつとりますよ。これ実際に日曜、祝日が休みということで、はっきり言うて透析行かれとる方がもう入院するんですよ、そのときは。例えば5月のゴールデンウイークとか、年末とかというたら必ず北川病院にかかつとる人、平病院にかかつとる人が入院してしまうんですよ。行けないから、透析へ。じゃから、これもそういうことも考えて運営せにゃあ、皆さんこれは交通弱者の足の確保ですからな。元気な人のしょんじやねんじゃから。

ということ、きょうこういうことがあるんらぜひ言うてくれというて。実は何でこういうことを、声力入れて言ようというたら、僕の同級生が透析受きようるからというんもあるんですけど。そういうなんがあったり、それからおとついは葬式があつて同級生が死んだんで言うちやおかしいんですけど、いつどうなるかわからんので、病気とかにかかつとんならしていただきてえということがあつたんで、考え方としては運行時間を考えていただきたいというのが一つ、そうすりゃ回数も減したら安うなつてできていくんもあるんじゃねえかと思うんじゃ。これについての見直しはどのように考えとるかというのを1点教えていただきたい。

それから、佐々木委員が言うた、とめたんですけど、全体の足の確保とか、高校生の助成とかというのは全体的な考えなんで、きょう我々のとこでこの話が、片鉄バスのことはできてもなかなかできにくいと思うんです。今徳光課長が答えることはできんのじゃねえかと思う。も

ちろん市長もおりゃ、副市長がおられるからというてもなかなか難しい問題になると思いますが、これについては全体的な赤磐市のほうが、総務文教委員会がやるという話じゃなく、最終的には考え方を聞かせてもらえればいいと思うんですが、きょうのところはこれにさせていただきたいと思うんで、とりあえず私が聞きたかった、時間帯で運行の変更ができるんかできないんかということが1点。

それからもう一点は、来年度は一応議長の計らいで10月までできますわな。9月30日までできますが、その以降の27年10月1日からの運行がどのようになるんか、考え方があったら聞かせていただきたいと思うて。澤さん、関係しとったら言うてください、よろしいです。

澤委員。

○委員（澤 健君） いいですか。ごめんなさい、基本的なことがわかってなくて。

和気高に通ってる方が5人いらっしゃるんだろうというふうに資料から見るとですけど、この……。

○委員長（北川勝義君） 遠いんじゃないけど、時間帯がねえから送ってもらおうらにゃいけん。オートバイで行ったり。

○委員（澤 健君） この和気高のあるのはバス停でいうとどこなのかなっていうのをちょっと教えていただきたかったのが、まずそれが1点ですけど。

○副委員長（松田 勲君） 駅前、駅前。

○委員（澤 健君） 和気駅前。

○副委員長（松田 勲君） 予定表に書いとる、和気駅前着。

○委員（澤 健君） この和気駅前が和気高があるところなんですね。だから、その先は和気高の生徒は行ってないってことですよね。

○委員長（北川勝義君） 逆にそっちから来ますが、向こうからも。じゃけえ全部集まる。

○委員（澤 健君） そういうことじゃね、はいはい。

それから、済みません、北川委員長言われたり佐々木さんが言われてるのと関連してると思いますが、恐らく当面の施策と、それから長期的に見てどうかっていうのを考えていただきたいなど。特に人数的に言うと、バスという形態がいいのかどうかっていうこともあると思うので、ぜひ長期的で、恐らくこういう事例ってのは全国いっぱいあると思うんですけど、そういうところはどういうふうに対応し、住民の方の利便性も確保しながら、しかし市町村のそういう負担っていうのも減らす、じゃあどういふふうにしたらいいのかっていうのをいろいろやられてると思うので、ぜひ長期的なところではそういうことを御検討いただきたいなと思います。それ、ぜひ御回答いただければ。

○委員長（北川勝義君） 徳光課長。

○秘書企画課長（徳光哲也君） 二、三点、質問をいただいたと思います。

まず、バスの時間帯等の変更による利便性の向上等でございます。さきのアンケート調査等

も含めて今後活性化対策協議会のほうで、幹事会等で検討してまいりたいというふうに思います。

それから、来年の27年10月1日以降の運行でございますけれども、これにつきましては先ほどもお話ありましたように備前市が抜けますと和気と赤磐、1市1町になってしまいます。この1市1町での運行がどういう形態がいいのかということにつきましては当該の市町で今後検討していく課題かなというふうに思います。

あわせて、澤委員さんからも御質問ありましたように長期的な展望でございますけれども、やはり学生さんの利用が少ないといえますか、それから学生さんが少なくなったり、あるいは時間帯が悪いということになれば定期、定時路線の運行が果たしていいのかどうかということも含めて、あるいは同じように周匝、和気間等の運行でいいのか、そういったところも含めながら関係の市町、和気と赤磐になるかと思っておりますけれども、そこらあたりで今後検討してまいりたいというふうに思います。

以上でございます。

○委員長（北川勝義君） 澤委員、よろしいか。

○委員（澤 健君） はい、結構です。ありがとうございます。

○委員長（北川勝義君） 他にありませんか。

佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） 済みません、このチラシについてお尋ねします。

右上に赤磐市のマークが入ってるんですが、これ入っていいんですか。以前、お尋ねをしたときに管財課だったと思うんですが、お尋ねをしたときにこのマークというのは市に関するものであればこのマークが使えるんだという話だったんですが、こんなマーク入れてたらがっつりこの映画にかかわりますよという証拠になってしまうんですが、それでも本当にいいんですか、意思表示ということで。

○委員長（北川勝義君） 徳光課長。

○秘書企画課長（徳光哲也君） マークの件でございますけれども、映画に関しましてはこれまでも何回か御答弁をさせていただきましたように、この映画を通じて赤磐市をPRをしていくという目的も一つには大きなものがございます。今回のこのチラシにつきましても、赤磐市が協力をしていくという協定に基づきまして、全面的なバックアップをするということから今回マークを入れさせていただきますして、赤磐市で舞台としてこうした映画が製作されるということを市のほうが主体的にPRをさせていただくということで載せさせていただいております。

○委員（佐々木雄司君） はい。

○委員長（北川勝義君） はい、佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） であれば、この一番下のところに書いてあります製作協力委員会準備室ではなくて、赤磐市の秘書企画課なり、あと産建の部署の観光課であったりとか、こうい

ったところの問い合わせ先になるんじゃないんですか。準備室になるのおかしいでしょう。

○委員長（北川勝義君） はい、徳光課長。

○秘書企画課長（徳光哲也君） この準備室の考え方でございますけども、一応製作協力委員会というものを組織するまでの間は現在秘書企画課においてその手続をしていくということでございまして、右の問い合わせ先、955の2692につきましても秘書企画課の電話番号というふうになっております。

○委員長（北川勝義君） はい、佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） だから、そのところをごちゃごちゃごちゃごちゃせずに、時期が変われば名前が変わったりするようなことではなくて、今から備えられるものに関しては変更、いつまでも変更しなくてもいいように名前を整えておくということも重要じゃないんですか。今の時期で何もできていないからこの名前を使うんだ、じゃあできたらこの名前は変わるんですか。できたら、この赤磐市のマークは外れるんですか、違いますよね。今の御説明だと岡山県赤磐市として、この「種まく旅人3」というものを本市のアピールとして利用する、そのためのチラシだというのであれば別にここ準備室である必要ないじゃないですか。秘書企画でいいんじゃないですか。そこを何でこういうぐあいにするのか、よくわからないっていう話なんです。

○委員長（北川勝義君） ちょっと、関連でよろしいか。

実は、僕はその先のことを思うて、10周年記念式典を3月29日に実施したいという予定で、まだ決定じゃなかったんじゃないけど言われたんですけど、せっかく配るんじゃないたらこれに3月29日実施じゃとかというのを入れたほうがええんじゃないかねえかなと、ちょっと僕は思うたん。これ執行権の問題じゃから決定したらやりゃええ、何で実施の予定じゃ予定じゃというて、難しいん、そねん。どんなんかな、決定じゃねんかな、29日予定かな。これへ書いて、赤磐市市制10周年記念で「種まく旅人」の上にこうええんで、それかどっかのとこへ一段あけてもええんじゃないけど、10周年記念式典は27年3月29日に実施いたしますというんでも入れたら、もっとええんじゃないかねえかと思う。まだ決定、難しい何かあるんですか、そのことを絡みで。絡む話じゃねんじゃけどどんなんですかね。そねん難しいん、何か。

それで、もう一個言うてええ。説明が前のときには27年度の予算でやるというて言われとったでしょう、当初は。言われとったんじゃないから、なぜ26年度の末の3月29日にやるんならという説明が聞きたかったん。県議選があるから、統一地方選挙があるからというたりするんじゃないけどな、よその。よそもしょうるけんというて、池本部長、たしか徳光課長はよそもしょうるから祭りするんじゃないというて言われたと思うんじゃ。ええときには近くがしょうるとか、どうのこうの言うんじゃけど、ちょっと教えてもらやあなと思う。ちょっともう少し説明を踏まえて。

はい、池本部長。

○総合政策部長（池本耕治君） 一応、事務局といたしますか、執行部とすれば3月29日を今ターゲットにして考えております。それで、正式に先先行ってもあれなんで、きょうの委員会で3月の末というふうな言い方いたしましたけれども、実際のところ来年度の予算で当初は考えておりました。しかし、国のほうが統一選で4月12日というのが発表されて、4月になってそのあたりで式典というのなかなかあるかと思ひまして、3月末にターゲット今絞っております。もう委員長言われましたように、3月29日を目標に事務を進めたいと思ひます。したがひまして、12月の補正ではまとも次第、若干組み替えなり追加をさせていただきたいと思ひています。

それから、このチラシの件につきましては基本的に松竹がやっております。が、赤磐市で撮影をするというチャンスでありますので、10周年を記念いたしまして、この映画を応援することについてはいろいろ今までお話をいたしております。

なお、この赤磐市を舞台にやるということで、赤磐市の特産物をPRするという分が第一の目的があります。したがひまして、いろんな形で赤磐市の特産物をPRしていきたいということでマークを入れ、「人“いきいき”まち“きらり”」のことも、ロゴも入れさせていただいておりますし、ここのQRコードを写せばまだできておりませんが、赤磐市のホームページのほうでスマートフォンなら見れるというふうな仕組みをしたいと思ひます。

それから、名前ですけれども、10周年記念「種まく旅人3」の製作協力準備室ということで今準備を進めております。いろんな形で一日でも早くPRをしたいということでこういう格好をやっておりますけれども、これにつきましてはきちっと宣伝協力隊、応援隊ができましたらここの分については刷りかえをしたいと思ひますので、当面こういう格好でやらせていただきたいと思ひます。内容につきましては逐一、次のデータが入りましたらきりきりで印刷は新しいものにさせていただきたいというふうにして思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

以上でございます。

○委員（佐々木雄司君） はい。

○委員長（北川勝義君） はい、佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） 製作協力委員会準備室、これをいつおつくりになられたんですか。そういった御説明も、事前にこういった準備室をつくって広報活動をするんだというような説明も、我々担当する所管の委員会について御報告いただいたような私は記憶がないんですが、いつこれおつくりになられたんですか。そちらに執行権があつて、おつくりになれるのが自由だとしても、一声お声かけがあつてもよかったんじゃないでしょうか、こういう重大なことについては。

○秘書企画課長（徳光哲也君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、徳光課長。

○秘書企画課長（徳光哲也君） 準備室の設置につきましては任意で設置をさせていただいて

おりますけども、事前に委員会のほうに詳細説明がございませんでしたことにつきましてはおわびをいたしたいと思います。

以上でございます。

○委員（佐々木雄司君） よろしい。

○委員長（北川勝義君） 他にありませんか。

はい、下山委員。

○委員（下山哲司君） これいいんですけど、説明では民が映画をやるんじゃという説明じゃったですな、部長。お金を集めるのを市長があちこち声をかけよんじゃというような話も聞くけど、どうも映画会社の手先を市長がやるんかという、そういうふうを受け取られるんじゃけど、今までの話を聞きようと。ほいで、市制10周年とこれというのでよそのを聞いてみたら300万円程度しか使わんとというて、1,000万円を超えるほど使ようとこやこないといういうんじゃけどな。だから、そういうニュアンスの中からいって、どうも前から言うように不自然なんよな、これが。その辺、総務部長、きちっと説明してくださいよ。

○委員長（北川勝義君） 池本部長じゃろ。

○委員（下山哲司君） 前にも言うたように、3月で定年になるからわしはええんじゃというような軽い気持ちで言わずに、ちゃんと説明を。

○委員長（北川勝義君） やめたら副市長しょうとしょうるのに何を言よん。

池本部長。

○総合政策部長（池本耕治君） 協賛金につきましては、ある程度の協賛案内ができましたら協賛各社へ正式にいろいろお願いをしていきたいというように思っております。

それで、300万円程度っていうておっしゃられましたけれども、第1作については500万円というふうにはお聞きいたしております。県も500万円、臼杵も500万円というふうにはお聞きをいたしております。

したがいまして、手先とかそういう意味じゃなしに、赤磐市も協力して協賛金のほうを集める努力をいたしますよというふうな形で実施をしていきたいと思います。あくまでも赤磐市と、それから松竹の役割っていうのはございますので、そのあたりはしっかりしながら進めていきたいというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） いや、300万円言うたのは、よその町が市制10周年やるのを聞いてみたら300万円程度が皆各市のあれで、赤磐が一千何ぼも使うんじゃというたらびっくりしょうた。建国千何百年とかというのにはあちこちは錢をかけてやっとするけど、たかだか10周年のあれに一千何万円も金を使うということが、そりゃちょっと飛んどのなというような表現でよそから受け取られたんじゃけど、そのことを聞いたんです。

○総合政策部長（池本耕治君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい。

○総合政策部長（池本耕治君） 当初予算ではそういう組み方をいたしております。これは、式典の予算は組んでおりません。今回、12月の補正で式典の予算はまとまり次第出させていただきます。これについては、11月の委員会である程度のまとまりができましたら説明をさせていただきます。

それから、当初予算で1,500万円程度組ませていただいておりますけれども、これは市勢要覧なり、その他もろもろのものを含めてPR活動費ということで組ませていただいておりますので、そのあたりは12月で若干の組み替えがあろうかと思えます。また、新しく追加も出てくると思えますので、あわせてまとまり次第説明させていただきます。式典の予算は当初27年度ということで組んでおりませんでしたので、よろしく願いいたします。

○委員（下山哲司君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、下山委員。

○委員（下山哲司君） ほんなら11月楽しみにしときゃええんじゃな。そのころには納得したような予算の組みができるということじゃな、今の答弁でいやあ。

○総合政策部長（池本耕治君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 池本部長。

○総合政策部長（池本耕治君） 式典の費用につきましては、できるだけ費用がかからない程度にしたいと思います。儉約をしながらでもやらさせていただきます。具体的にまとまりましたら相談をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

○委員長（北川勝義君） よろしいな。

○委員（下山哲司君） はい。

○委員長（北川勝義君） 部長な、そう簡単に一委員さんが言うたから、式典にせんようにしよう、少のうしょうとか、300万円じゃけえどうこうという話じゃのうて、ほな一委員さんがふやさじゃおえんじゃねえか、大々的にやってくれ言うたら、ほなふやしましょう。そう簡単な発言をするなよ、おめえ。市長、きょう不在じゃけど副市長おられてから、きょう。あんたら、どなたか一人の議員さんが言うたら、難しいけん、これは言うて、それこそ執行権の介入もあつたらあるんじゃ、毅然として言うていただかじゃあいけんわ。

今、考え方として、下山さんはこういうこともあつたら、ほんなら見させてもらおうというて、よそが300万円じゃというのを例を言われとんで。どねんなるか、よそとは違うところもありや、そりゃ300万円以下になる場合もあるし、ふえる場合もある。そこんこ納得、お手並み拝見じゃというような言い方、冗談で言よんじゃけど、そういう話じゃのうてぴちつと言うてもらわにやあ、これ委員会じゃから、何かこの委員会に関して言うたら、簡単に言うたら、そういう人が一言言うたら、ほなそうしますが、そねえな簡単に、おめえ。それじゃつたら声

を大きゅうして、ここへマイクでも持ってきてやれえ、おめえ。そういな者の言うこと聞くと同じじゃねえか。ええか悪いじゃのうて、行政じゃけん、しつこう言うたり、やかましゅう言うたらするんかというて。

そうじゃねえ、声が小もうても言うたらせにやあおえん場合もあるし、いろいろな考えがあつて、僕はある意味の10周年でこんだけ難しい10周年来たんじゃから、市長賞じゃ、議長賞じゃとかというたら、それから歴代のおられた市長さん、議長さんやこう、僕はもうほんまに表彰してあげてえような、それから子供とか関係者じゃな、本当にやられてきたことには僕はするべきじゃと思つとんですよ。僕はそれはせえとかじゃねんじゃけど、大々的にせえというんじゃねんじゃけど、やっぱりそういうことも考えていただきてえと思うたんで、そう簡単には軽はずみに部長言われんで、それも踏まえて、部長、言われるんでもう一遍ぐらい。

はい、池本部長。

○総合政策部長（池本耕治君） 先ほどの答弁、若干修正をさせていただきます。

12月に式典の費用はまた出させていただきますけれども、中身につきましてはきちっと精査して、適切なる執行ができるような事業ができるようなことを考えて組み立てたいと思いますので、よろしく願いいたします。

以上でございます。

○委員長（北川勝義君） ちょっと待って。3月29日に記念式典じゃというのは12月に公表するということ。きょうで決定ということ、どうなるん。

○委員（下山哲司君） 11月の委員会には報告できる言うから、ほんなら楽しみにしどころ…。

○委員長（北川勝義君） そっちの予算はええんじゃけど、3月29日はいつ決定するということを知りたかった。

○総合政策部長（池本耕治君） 市長が不在なんで、ここで決定と言うのはあれですけど、一応そういう見込みで皆様方に……。

○委員長（北川勝義君） 決定でも何でもねえことを、おめえ。ちょっと池本部長、市長がおろうとおるまあと、決定でも何でもねえことを議長、議長怒りようる、議長な、決定でもねえことを委員会で市長がおらんからというて、べらべら言うてもろうたらおえんで。一応、決定のことじゃろうぐれえで思よんじゃけど。

○委員（下山哲司君） 総務部長が言うたように、事業内容の説明ができるじゃろうというて言よんじゃから、ほんならそれでええ言よん。

○委員長（北川勝義君） 違う違う、そっちの話はええんじゃ。

○総合政策部長（池本耕治君） 3月29日の日にちについては、一番最初に課長のほうが3月下旬ということで、我々事務的には3月29日を目標に定めております。これを正式に発表するにつきましては、また執行部で調整してきちっと発表させていただきたいと思います。

きょうはそういうことで……。

○委員長（北川勝義君） それはいつごろ。11月。

○総合政策部長（池本耕治君） 11月の委員会では言えると思います。正式な形で発表したほうがよろしいかと思しますので、よろしく願いいたします。

○委員長（北川勝義君） わかりました、わかりました。

佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） 来年の3月29日を目指していろいろお考えになられていらっしゃるということですが、どういった内容のものをするのかというのは12月でよかったですか、11月って言いました。

○委員（下山哲司君） 11月の委員会。

○委員長（北川勝義君） 11月。

○委員（佐々木雄司君） 11月の来月の委員会ということですか。これ何で、今の時点でもうわかり切ってる話で、半年切ってますよね。半年切っているにもかかわらず、今の時点で出ていないって遅くないですか。そこら辺の時間感覚っていうのはどうなんでしょう。

○委員長（北川勝義君） 池本部長。

○総合政策部長（池本耕治君） 当初は、26年当初予算に組んで4月の初めぐらいに思っておりました。これがなかなか、統一選と絡みがありまして、4月12日っていう発表がありましてから、それを避けるような形ではっきり申し上げまして段取りをいたしました。そういうことで、3月7日に合併いたしておりますので、4月の終わりとか5月とかというよりは3月の終わりのほうがよろしいかなというふうに、執行部のほうで考えてそういう段取りをいたしております。

したがって、時期的に遅いと言われれば確かにそうでありますけれども、近隣の市町村の状況を見ましても、まだ決定していないところ、あるいは決定したばかりのところ等ございます。赤磐市とすれば、若干遅いかもわかりませんが、そのあたりはきちっと精査しているものができるようにしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○委員長（北川勝義君） 委員の皆さんに確認とお知らせをしておきます。

委員長、副委員長のほうで、10月はきょうが総務文教委員会ということでやらせていただきまして、11月がいろいろ執行部の御都合もありまして、11月12日にやらせていただくようにしております。

それで、そのときに、先ほど下山委員が言われた、私が言ったり佐々木委員が言われたこと、質問事項があったら、内容が固まってきて発表できることが、提案じゃなくこうやりたいということが出てくると思いますが、楽しみに待たせていただいてやらせていただくということで、このことについては終わりにさせていただきたいと思うんですけど、よろしいでしょうか。

○委員（佐々木雄司君） 最後ここだけ。

○委員長（北川勝義君） 佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） 濟いません。今、お答えの中で言葉が出たので、ちょっとそのことについてお尋ねをしようと思うんですが、予算編成等々の関連があつてというようなお話だったんですが、ということになったら、11月12日の総務文教委員会の折にはある程度予算審査のほうがもう終わっている段階だというふうに考えて、ほかのことについてもそういうことなんですかというふうにお考えしておいていいんですか。じゃなかったら、予算編成の話ですから、これだけっていう話じゃないですよ。

○委員長（北川勝義君） はい、池本部長。

○総合政策部長（池本耕治君） 財務部のほうで、12月の補正の予算については今取りまとめを……。

○委員（佐々木雄司君） 補正。

○総合政策部長（池本耕治君） 補正です。

○委員長（北川勝義君） 12月の補正。

○総合政策部長（池本耕治君） それに合わせてさせていただきたいと思います。当初予算のほうで予定しておりましたものを12月の補正でさせていただきます。よろしく願いいたします。

○委員長（北川勝義君） それでは、これで総合政策部のほうは終わりたいと思います。

25分まで休憩といたします。

午前11時15分 休憩

午前11時27分 再開

○委員長（北川勝義君） それじゃあ、再開します。

続きまして、総務部のくらし安全課の関係で質問がありましたら、委員の皆さん、質疑をお願いしたいと思います。

考えてくれとる前に、僕ちょっと言うときますんで。

11月5日のJ-ALERTのはええんじゃけど、前回失敗したんで今回は失敗せんように。前回の失敗は何が原因じゃったんかな、何じゃったんかな。ねえと思うんじゃけど、今回はお願いしてんですけど。

それともう一つ、高陽中学校の11月23日の赤磐市総合防災訓練じゃけど、絶対皆さん来られると思うんですけど、議長も絶えず発言して言わりよんですけど、いろいろなイベントとか行事があつたら、議員さんの出席率が非常に少ないんで、私はどうこう、議長じゃねえんで言うあれがねえんですけど、担当委員会のとこがあつたときには極力委員さんに出席いただきたいという。これは強制じゃありませんけど、お願いなんで、ぜひ11月23日の高陽中学校のときには、来るなど言うて皆来とんかもしれんけど、ぜひ出席をお願いします。

○くらし安全課長（水原昌彦君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、水原課長。

○くらし安全課長（水原昌彦君） 昨年行いました J－A L E R T を用いての訓練につきましては、防災無線の起動部というところ、指令を受けたものを外へ流すという起動部の中のアースにちょっとふぐあいがございます、流れるとこと流れないところがあったという。それはもう完全に修理いたしまして、完璧な状況になっております。

○委員長（北川勝義君） もうこれ以上言いませんけど、課長、部長もじゃけど、これは一番大事なことで、あったときになけりゃあええんじゃけど、アースが悪かろうとどこじゃのうて、例えば避難出すときに不都合じゃったということじゃたら困るんで、そういうことは大変なメンテナンスをかけてやられて導入しとんじゃから、これは業者のほうに責任とってもらうかびしつと言うてください。国からの J－A L E R T が悪いんじゃのうて、来てから、こちらの受けから基盤が悪んじゃたら、出すんが余計。災害時がいつあるかわからんのんでお願いします。これはもうよろしいです。

はい、佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） どうもお疲れさまでございます。

ごめんなさい、赤磐市総合防災訓練実施要領、これは（案）が外れたということはこれでやりますよという内容のものになってきたんだろうとと思っているんですが、訓練参加団体や訓練協力団体に隊友会さんとか父兄会とか、要するに自衛隊の O B の方々、こういう方々が赤磐でも結構数人数いらっしゃるんですが、こういう方々の御協力というのは得れてないわけなんではしょうか。

○くらし安全課長（水原昌彦君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、水原課長。

○くらし安全課長（水原昌彦君） 隊友会の皆様方の御協力につきましては、当委員会でも御指摘がございました。

それで、隊友会につきましては、全国組織で、岡山でも岡山県と隊友会が訓練の協定を結んでいるということも存じております。赤磐、瀬戸につきましては支部がございまして、そちらのほうの支部で活動されるということでございますが、隊友会自体も東京本部からの指令で、協定書を結ばないと訓練に入っていけないというふうな運用があるようでございます。

今現在、岡山県と隊友会、各市町村との協定についてお話をされているということをお聞きしております。それから、こちらの赤磐、瀬戸の支部につきましても、この11月に総会があつてそういうお話を出されるというふうにお聞きしておりますので、今回の総合防災訓練には参加できないというふうなことがございました。

○委員長（北川勝義君） ちょっと、僕要らんことを思うて。怒られるかもしれん、6 番の訓練協力団体というて順不同で書いとるでしょう。

○くらし安全課長（水原昌彦君） はい。

○委員長（北川勝義君） これ、僕はいつも思うんじゃけど、うちらでもあった、自動車屋さんが車出してくれてめえだりするの、協力がありますが。じゃけん、山本自動車さん、このことは名前どうこう言うんじゃねんじゃけ、山本自動車さんがどうこう言うんじやのうて、前も自動車屋さんの名前が出るんじゃけど、そうじやのうて赤磐市の中に自動車協会とか組合がありますが。そういうなほうで順番で出してくれりゃあええんじゃけど、何かせなんだら出とると出てねえんがなとちょっと感じたんで、6番目のとこやこうじゃったら、今どっこも皆団体ばあでしよう、上のとこが。そういうなほうがあええんかなとちょっと今思うたんです。前もやられとるからこのやり方するんじやと言われたらええんじゃけど、順番で行きよんかな、誰かで。

○くらし安全課長（水原昌彦君） はい。総合防災訓練、2年に1回ということで年限を定めてやっておりますが、その訓練を実施する地域で車の御協力をいただいておりますというふうなことがございまして、今回もそういう方法をとらせていただいております。

○委員長（北川勝義君） くでえけど言いたかったのは、もう個人名、会社名よりは協会とかがあえかったんかなとちょっと思うただけのこって。向こうがそうしてくれというて来とんじやったら、別に問題ねえですけど。

他にありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） なければ、これで総務部のくらし安全課のことを終わりたいと思います。

続きまして、財務部のことについて、赤磐市桜が丘東地域整備基金について、何かありましたら。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） ほんなら、皆さんが何もねえときにちょっと言うときえ質問があるんですけど、これ満たしていただいとったら、僕は大和がしてくれて大変すばらしい基金だと思うんで、基金置いたということもいいんですが。20年に最終的に問題になった学校も片がついた、それから10年間でやっていくということで約1億円あります。この1億円が10年後になくなったときはどこがやるんですか。なくなっても赤磐市がやるんでしょ。この1億円使ってもやるわけでしょ、その後。僕は、これはこういう基金で置いとってでもいいんですけど、運用の仕方、こういう基金の全体で考えたら、最低限でもネオポリスの東、西やこうは一緒にやるべきじゃねえかなというんが、考え方があったんが1点。

それと、全体的な考えでいうたら、どこであろうとやり方、各市町村がやったときにはいろいろな補助とかをもろうとる中でも、こういうことを置かずに事業進捗しとんもあります。財調で積み上げとるとこもあるし、ないところもあります。だから、この基金については、特別

にあれば積み上げも仕方がないと思うんですけど、ほかのどこへも何ぼか使うというようにせなんだら、この桜が丘東だけにと、そういうとられ方も出てくるんじゃないかなと思うたん。今後、何らか、今基金について出されとることの設置目的、いろいろなことはもうよくわかっております。しかし、そこんとこの設置目的、もう少し幅を広げる、今後何年か検討すべきじゃないかと思います。そうでなかったら、これを使い果たした後にはどうするんですかということを書いてえんです。これで終わりですか、使い果たしたら。僕は、一番発展していきようところでこれから開発していくとこじゃったら当然すべきじゃないかと思っとるわけなんですよ。じゃから、前から僕の持論で言うるとるマックスバリュのこの商店街の確保は、あそこらの開発やこうはやらにゃおえんです。あそこは、ほんなら西じゃけん西だけでやりなさい、東は使わさんとかという話じゃのうて、いろいろ考えてやったほうがいいんじゃないかなという、僕はそう思うとんで、そこらのことも今後考えていく必要があると思うんですが、それについてはどう考えられとんでしょうか。

○財政課長（直原 平君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 直原課長答えるんか。

○財政課長（直原 平君） いや、済いません。

○委員長（北川勝義君） はい、直原課長。

○財政課長（直原 平君） 北川委員長の御指摘はごもっともだと思います。

この桜が丘地域の整備基金につきましては、そこに書いておりますように20カ所、公園7カ所、幼稚園、緑地ということでございまして、21年3月31日に20カ所の試算をいたしまして、協定に基づいて積み立てた額が1億1,846万4,000円ということで、これについては順次進めてまいりたいと思いますけれども、御指摘の新たな今後の整備についてはどうするかということにつきましては、またこの基金とは別に新たな基金等を設けるといった方法もありではないかなというふうに考えております。ちょっと私からは、はっきり今後どうするというのは今の時点では申し上げられないというのが現状でございます。

○委員長（北川勝義君） 僕は、じゃけん直原課長答えれるんかと聞いてあぎょうるわけじゃ、親切なから。維持管理をするのは、どっこもこれから維持管理が要るんですよ。これからやっていくのも、今公園7カ所で未設置が13あって、これからやっていかにゃあおえんのんです。せえでもこれから情勢が変わって、こういうところは今しなくてもいいんじゃないかと、なお、しとるところをもっとようけえしてあげるべきじゃないか、いろいろ情勢が変わってくると思うんです。そのときに、この整備基金の条例だけつくって、だけどこれの運用ですよ。最後が、未施工の公園整備や児童公園、その他環境整備は市が直接行っているものと。環境整備の事業を行うんじゃ、やるんじゃとかというていろいろ言うけど、積立金を活用してね。そうなったら、地域の方の意見を聞いてあげにゃあおえんのですよ。行政の方がこれをするんじゃとかじゃのうて。だから、僕はもっと運営のしやすいようにすべきじゃねえかな

と思うとるわけなんです、言い方が。

それで、ほんならこれで全部終わってなくなったらもう終わりじゃというわけにはいかんでしょうということを言よんですよ。これからやって、絶対、設置したら必ず維持管理が要ります。改修が絶対要るから、余計要るようになるんですよ。そのときの考え方をどうやっていくか。これが果実を食べていくような、果実をいくようなことじゃたらええんですよ。これ、果実じゃねえ取り崩しでいきょうるでしょう、利子の積み立てじゃのうて取り崩し取り崩しでいきょうるわけです。最終的には1億100万円しかのうなとるわけなんですよ。

じゃから、このときに、やり方、今これがおえんというんじゃないくて、これがまだまだふえていくという、ここの、今桜が丘西より東のほうが開発をようしょうりますが。ふえていくからには、何らかのことを考えていかにやおえんじゃねえかということを考えて言よんですよ。別に、市長、きょう結論出せとかじゃのうて、これを全部使い切ってもやらにやおえんことはやらにやおえんでしょう、ふえていきょうるところにや。悲しいかな、僕は吉井町のほうで、ほんまに吉井でやってやってもらいてえですよ。しかし、吉井で人口が10人しか住んでねえとこ、例えばの話が1日交通量が10台しかねえとこへ2車線の道をつくっちゃれというたら、大それてなかなか言いにくい、事業でもありやお別として。今度は1,000人が住んどって1,000台通るようなとこへ、やっぱりどうしても持っていかにおえんようになる。この間のバリアフリーの道のことで、桜が丘の幹線のことで言うたときに、うちらもしてもらいてえな、うらやましいなというのを決算のとき言ようたんじゃけど、それはしかしそう言うてみるけど、事実やっぱりようけ使うて使ようるところへ持っていかにおえん仕方がねえんですよ。これはもうわかつとんですよ。だけど、ほんなら使い切ったらどうするんならというんがあるんで、非常に難しい話かもしれんけど、どちらにも使い切って終わりというんじゃのうてやっぱりかけていただきたいというのを、考え方を市長、持ってもらわなんたら、これをこしらえたんが悪いとか全然言ようりやしません。これはまだ足らんじゃねえかと思うぐれえ思うとんじゃけど、もっとどこまでやっていくんかなと思うたわけです。これがいつまでも果実が実っていきやおえんじゃけど、果実にならんような、今の利息じゃたらならんようなことで、取り崩し取り崩しというたら、今のことで例でいうたら、取り崩しが1億円とか1,000万円とか、ずっと取り崩していきょうたら、だんだん取り崩したらすぐのうなるんじゃねえかという気持ちもあって、あえて言わせてもらよんですよ。

それと、これはどういう考えか知らんですけど、この基金つくるんじゃたら、これだけでもろうた基金じゃのうて、合わせて桜が丘東の方とか、それから行政のほうが上乘せしてやるのが僕は基金じゃと思うとる。来たから全部基金じゃというような考えはあはちょっと危ういかな、今後やっていくのに。協定書が結ばれとるからということもあるんですけど、いろいろなことがあるんじゃけど。どねん考えられとるか、ここでわからなんたらよろしいから、また考えがあったら教えていただきてえと思うとんです。いや、わからなんたらええんです、考

えがなかったら。

ただ、言いたかったのは、僕は市長に考え方を聞きようだけで、桜が丘東だけするんかというたら、くでえですよ、東だけするんかというたら、これが悪い言ようりゃあしません。したら、こういう協定もあってやるんじゃないけど、1メートル控えて東と西でしょう。例えば道一本隔てて、ひつついとるでしょ、東と西が。離れとるとこもあるけど。やっぱ、そうなったときに、東はできるんじゃない、西はできんのんじゃないという話になったら、いろいろ東と西が青年部とかいろいろイベントしたり、せっかくさくら祭りとかやっとなのにばらばらになる、これが悪いと言よんじゃないけど、そういうことになり得る可能性もあるから、今後どうするかというのを聞きたかったんです、考え方。わからなんだらええです。わかったら答えていただきゃあと、ちょっと今私が思うた考え方。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、市長。

○市長（友實武則君） まず、私、所用でおくれての出席、おわびを申し上げます。

まず、今の桜が丘東の整備基金についてのお尋ねですけども、これについては過去の経過もございます。関係者と協議しながら、委員長の御指摘のことももっともなところもございますんで、関係者と協議をさせていただこうというふうに考えております。

以上です。

○委員長（北川勝義君） わかりました。

他にありませんか。

下山委員。

○委員（下山哲司君） 今市長が言よう関係者と協議というて、話がごじゃごじゃなんか、余計わからんようになってきた。どういう意味、そりゃあ。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、市長。

○市長（友實武則君） 関係者というのは、この桜が丘東の連合の町内会とか、この整備基金の協定等、地元の協議等、これまでしてきた経過がございます。そうした関係の方々との協議を指したものでございます。

以上です。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 私の認識じゃあ、今委員長が大和ハウスが出した銭じゃと言うけど、大和ハウスが出した銭じゃと思うとりませんよ。あそこへ建設するとき45万円か50万円か負担金が必要って、それを集めた銭がこれなんじゃから。だから、大和ハウスが出した銭じゃねえですよ、これは。あそこへ住んどられる人は知つとんじゃろ、みんな出されとんじゃから。この銭と集合体がこの一部じゃから。じゃから、市長、そねんな軽々しゅうしちやあいけん。こ

れはあっこへ住んどられる方が、自分らがした拠出金で、これは。資源は。

○副委員長（松田 勲君） いや、違う、違う。違う、違う。

○委員（下山哲司君） 僕はそういうふう理解しとんじゃ。

○副委員長（松田 勲君） それは違う。それはもう返つとる。

○委員（下山哲司君） いやいや、西じゃねえ、東はそういうて聞いたんじゃもん。

○副委員長（松田 勲君） それは違う。

○委員（下山哲司君） そういうふう認識しとるよ、ずっと。

○副委員長（松田 勲君） それは違う。それは各町内会に返つとる。返されとる。

○委員長（北川勝義君） ちょっと、一応僕委員長じゃけん、僕の許可を受けて発言してん、議長じゃねえけど。

それで、今僕の知つとる範囲で言うたら、僕も下水とか水道の関係からずっと携わつとつて、最終処分場をやってもらうんで東も西もかかわってしとったんで、内田副市長やこう一番よう知つとられると思う。話をしてきた中で、先ほど言うた下山さんの意見が正しいんか市長が正しいんかはっきりさせとかなんたら大変なことになるんで。僕の認識じゃあ、もうそれは終わって別建てで基金をいただいとると思うとんじゃけど、そこんとはっきりわかる方がおるか……。

○委員（下山哲司君） 委員長、よろしい。

前に説明を聞いたとるのは、返してもろうたというのは……。

○委員長（北川勝義君） ちょっと待って。いうのをはっきりせにやあいけんのんで、確認だけとりてえんで、もし担当部課長でわかる、近藤部長のところでわかるんがあったらちょっと確認をしてください。

○委員（下山哲司君） 返してもろうたというのは、あれが済んだ後に払うとる人のが返っただけじゃろ。

○副委員長（松田 勲君） 維持管理費は……。

○委員（佐々木雄司君） 都市計画法の法根拠があるはず。ああいう大規模な開発をするときには、こうしなさいっていうあれがあった……。

○委員（下山哲司君） 返ってきたというのは、ある程度期限が過ぎた後に建った人の分が返ってきただけで。

○委員（佐々木雄司君） いや、開発するときこういう……。

○委員（光成良充君） それは西の分。

○副委員長（松田 勲君） それは西のほうです。もう各町内会に返した。

○委員（光成良充君） 東は各町内に返した。

○委員（澤 健君） 委員長、調べてもう一度。

○委員長（北川勝義君） 今僕が言よんのは、さっき言うたのは……。

○委員（下山哲司君） 説明聞いた……。

○委員長（北川勝義君） 下山委員、今、僕同じことを言よるが、澤委員が言うたのと。調べてください、今、じゃからわかるんなら調べ言よんじゃから調べてくれりゃあええんじゃがな。

それから、今委員長がおるんじゃ、委員長に発言を求めて言うてくれえ言うて、おめえら勝手にだあだだあ言うんならやれえ、おめえ、ずっと。それ言よるだけじゃが、何遍も同じことを。議長がキレるときよりは、まだわしのほうがキレやすいんじゃけど……。

○財務部長（近藤常彦君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、近藤部長。

○財務部長（近藤常彦君） 今ちょっとわかりかねますので、調べさせていただきます。

○委員長（北川勝義君） 昼の休憩の時間に調べてください。

委員さんにもお願いするんじゃけど、臆測でああじゃこうじゃ、誰が言ようたじゃ、たらじゃとか言わん話でぴちっと言うてくださいよ。別にどっちの肩を持ちよんじゃねんじゃけど、僕は、今後赤磐市がよくなるために、そういうこともあったり、どうなっていきよんかというの、基金もぴちっとやっていたらきえてえと。僕は、ただ東と西が本当に共同していろいろな事業を進めてこらりよんのに、今こういうことで分けてしたら感情的に嫌になる。例えば、僕は周匝に住んで中村じゃ。ほんなら福田と中村で分けていきましようと言われてたら困るでしょう、せっかく一緒に共同しよんのがばらばらになるから。極端な話ししたら、福田やこうのこと言うたら、これ削除に書いといてくれ、……………
……………
……………そういう悪いとわかったところは直さにゃおえんのんじゃ、毅然と、間違うた。僕はそれが言いたかったんで、ぜひ調査してくださいということを言いたかったんで、昼のときにはお願いしますから。

他にありませんか。

○副委員長（松田 勲君） はい。

○委員長（北川勝義君） はい、松田委員。

○副委員長（松田 勲君） その回答にもよるんですが、私は、さっき委員長が言われたように、今未施工の公園がまだあるわけですよ。今後またつくっていくんかどうかです。

ほんで、前言ったように、東は1町内に2つ、3つ、4つあるんです、児童公園が。西は1個しかないです。西2丁目はゼロなんです。今の段階でもゼロなんです。で、前言ったように、今既成の、つくられている児童公園を整備してほしい声もあるんです。でも、この前の話だったら使えないという話になってたりしてるんで、それはおかしいんじゃない。だから、そういう意味で、さっき市長が言われたように、もう一回協議をしながら、本当に市民の方が求めているものをつくっていかないと。せっかく今できてる公園を整備していかないと、どん

どんつくっちゃって、さっき言った10年後には市の予算で今度は整備していかんやあいけん、また。それが果たしていいのかどうかですよ。維持管理していかんやあいけんわけです。それよりは今あるところを……。

○委員（下山哲司君） それは協定書のときに言わんやあいけん、今言うてどうするん。

○副委員長（松田 勲君） いや、だからそこを、協定書はそこまで書いてるんかどうかわかりませんが、その辺をもう一回確認をしながら、地域の方とも相談をしながら、本当に必要なものを建てていかないとなのかなというのは思うんですけど。その辺、市長どんなですか。

○委員長（北川勝義君） それは言ようたんじゃねん。

○副委員長（松田 勲君） 前も言ようた。言ようたけど、使えんと。

○委員長（北川勝義君） 使えんけど、例えば学校用地で寄附を受けとつても、草を刈らんやあ、学校用地でも学校用地にしないから今太陽光にしとりますが。環太平洋のサッカー場にす言ようたんと同じで、もうこれは赤磐市がそういう用途がのうなったからしていきやあええということで考えとんじゃけん、平成17年にしたときの考えやこうらずと変わってくると思うんじゃ。それは、今松田委員が言わりようる、市長も考える、関係者とよう相談してやっていただきやあええと思うんです。それは議会の、もうこういうことをやらんやおえんということとは、要らんのにそこだけつくる必要もねえんじゃねえかという。こんなことわかりやしませんけん。5年後には、全員がネオポリスの東から出て西のあいとるところへ動こうかというて、皆引っ越ししようかというたら、今度は西へしてあげんやあおえんのんじゃけん、考えはいろいろあると思うんで。僕がかえって、こんなことを言うちゃあおえんけど、内田副市長、下水しようたけんあるで、やっぱり水にしても漏りようるのがようけえありますが。不透明水というたらおかしいですけど、そういうなんを直すのは本当に相当の金がかかるんですよ。赤磐市の損害がふえてくるんですよ。こんな基金は、ここばあじゃのうて本当はためとくべきじゃと思うたんです。僕が要らんことを言う話じゃねえけど、そういうことなんで。答えを今もらう。もらわんやおえんの。

他にありませんか。

市長、答えられる。

○財政課長（直原 平君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） おめえ、また答えるんか、あんた。おめえ、でえれえ。

はい、直原課長。おめえ、副市長でもするつもりじゃな。

○財政課長（直原 平君） 済いません。

先ほどの市民の方から分担金をいただいたかどうかは、また昼に確認させていただきますけれども、これの説明資料の真ん中どこかに書いておりますけれども、そこにずっと書いてありまして、17年3月3日に協定書と覚書を締結いたしました。その後、市費の持ち出し等でたび

たび大和ハウス等と協議を重ねまして、先ほど言いました21年3月31日に確認書というものを結びまして、その年の5月29日までに1億1,846万4,000円を納入していただく、大和ハウス工業さんからいただきました。それにつきましてはお示ししてないんですけど、先ほど言いましたように、公園新たな設置が4カ所、そのほかは主に草刈りとか樹木の伐採ということになりますけれども、この20カ所の今後必要であろう経費、これにつきまして積み上げたものが1億1,846万4,000円でございます。それを積み立てておきまして、この20カ所に限った基金ということで、果実は別にいたしまして、事業実施につきましてはこの20カ所に限った内容ということで基金を創設したものでございます。

その後の果実、それからこれが枯渇した、事業を実施した先はちょっとまだお答えできませんけれども、今松田委員もおっしゃいましたように、それじゃあ必要なくなった、果たして4カ所のこの整備が今必要なのかということにつきましては、今のところ今後協議をしていくということでございます。

○委員長（北川勝義君） それ、市長が言うたがな、おめえ。

○財政課長（直原 平君） はい、そうです。

以上です。

○委員長（北川勝義君） 補足説明しちやりょうんか。

○財政課長（直原 平君） 分担金を住民の方からいただいたかどうかというのは、確認させていただきます。

○委員長（北川勝義君） それは、じゃけん屋の休憩時間に確認せえというのを何遍も同じことを言わんでもええじゃねえか、おめえ。わかった話じゃねえ。自分が担当で締結したんじやなかろうがな、交渉したんじやねかろうがな。あれと同じじや、USと同じじや、5,000万円出すというて出しゃあへんし。話はわしたんじや、目の前で。まあ、ええ、よろしいわ。

他にありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） なければ、これで財務部を終わりたいと思います。

皆さん、時間は早うても、下山さんえかろう。

○委員（下山哲司君） ええよ。

○委員長（北川勝義君） 昼早うてもえかろう。そうしたら、後が早う終われますけん。

12時半まで休憩とします。

午前11時53分 休憩

午後0時31分 再開

○委員長（北川勝義君） それでは、再開します。

それでは、先ほどのありましたら、大和の関係で答弁お願いします。

○財政課長（直原 平君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、直原課長。

○財政課長（直原 平君） 失礼をいたします。

午前中の大和ハウスからの分担金の件ということでございまして、住民の方からいただいたものが使われているのではないかと御質問もございました。大和ハウスの営業所等にも確認をとりましたけれども、当時を知られている方がなかなかいらっしゃらないということで、うちの関係で一応いろいろ聞いてみました。市民の方からいただきました団地維持管理費40万円につきましては、行政への移管が終わりました時点でお返ししたということでございまして、現在積み立てております1億1,800万円というのは、大和ハウス工業さんから直接出たお金でございます。

これについては、1つには公園の整備開発……。

○委員長（北川勝義君） 直原課長、そねえなことはええから。

○財政課長（直原 平君） よろしいですか。

○委員長（北川勝義君） 早い話が、個々の建設協力費したのは、市へ移管して、下水とか水道を移管したときに還付したんじゃないということで結構んじゃない。それはそういうことです。

○財政課長（直原 平君） はい、済いません、そういうことでございました。

○委員長（北川勝義君） またわかれば。ようしゃべりてえんじゃないら、またしゃべりゃあええから。

○財政課長（直原 平君） ありがとうございます。

済いません。

以上、報告を終わらせていただきます。

○委員長（北川勝義君） 次に、教育委員会で、教育委員会のほうはまとめていかせていただきたいと思うんですけど、どうしましょうか。分けましょうか。分けようか。

いやいや、教育総務課、学校教育課、スポーツ振興課と分けましょうかという意味。皆さん、ほんなら分けさせていただきます。

それでは、教育総務課のほうのひかり幼稚園の竣工式について。

これは何も別にあることもねえと思うけど、どんなでしょうか。

よろしいか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） それでは、12月22日が竣工式ということで、皆さん協力よろしくお願いたします。

次に、学校教育課の平成26年度学力・学習状況から頑張る学校応援事業までの3点を議題とします。

質疑ありませんか。

○委員（佐々木雄司君） はい。

○委員長（北川勝義君） はい、佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） 僕のほうから、21ページ、問題行動等、生徒指導上の諸問題に関する調査結果、これについてお尋ねいたします。

まず、いじめの認知件数のところなんですけど、いじめを考える週間や人権週間などでの各校の取り組みが成果を上げていると考えるとおっしゃられているんですが、これ、成果を上げているとお考えになられてる根拠ってというのは何か、もうちょっと詳しく説明していただけませんか。具体的にわかりやすく。何か言葉だけ並べているように、そんなふうに感じてやまないんですが。お願いできますか。

○学校教育課長（坪井秀樹君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、坪井課長。

○学校教育課長（坪井秀樹君） いじめを考える週間、人権週間等での各校の取り組みが成果を上げているというところなんですけれども、具体的に言うと、いじめを考える週間において、例えば各学校でそのときに教育相談週間の時間を設けて、子供一人一人と今の様子等についてしっかり聞いたりするのを、いじめを考える週間とか人権週間にやっております。

特に、いじめを考える週間は6月、それから人権週間はこれからというところがございます。各学校において、一人一人の子供たちの様子を特にしっかり聞くのをこの週間に合わせてしているということがございます。そういった中から、いじめの認知があったり、またはどういふふうに解決していったらいいのか、そういったのを特にその週間に合わせてやっているというところなんです。

以上です。

○委員（佐々木雄司君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） 佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） 詳しくありがとうございました。

じゃあ、済いません、ちょっとお尋ねするんですが、このいじめを考える週間、人権週間というのは、起源といいますか、いつぐらいからこれをおやりになられている取り組みなんでしょう。最近になって始めたものなのでしょうか。

○学校教育課長（坪井秀樹君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、坪井課長。

○学校教育課長（坪井秀樹君） 人権週間につきましては、これはもういつごろからというふうなことはあれなんですけれども、ずっと以前から行っております。いわゆる国がしております人権週間があると思いますが、それに合わせてやっているものです。

それから、いじめを考える週間につきましては、県の教育委員会のほうが、いじめがかなり多くなった時期があったと思います。そのときに県のほうが6月に行うということですから

り組んでおり、このいじめを考える週間については、もう岡山県一斉にどの学校も取り組んでいるというところで、時期的なことは申しわけございません。何年から始まってということについては十分承知しておりません。申しわけありません。

○委員（佐々木雄司君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） であれば、平成21年10件——中学校です——だったものが、平成22年翌年には46件とふえています。また、平成23年には12件と減っているんですが、平成24年には21件とふえています。このいじめを考える週間や人権週間等々の各校の取り組みが成果を上げているのであれば、ふえないんじゃないんですかね。これ、ふえた原因って何なんでしょう。

○学校教育課長（坪井秀樹君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、坪井課長。

○学校教育課長（坪井秀樹君） 24年度、25年度については数値がふえております。これにつきましては、いじめの事件等が全国的に発生したのもこれに重なると思いますが、各校に対していじめに対してしっかり調査していくように、調べていくように、本当にいじめが起こっているのかいないのか、しっかり子供たちから声を聞いていったりすることによって、先生方、学校現場がいじめの認知を、いじめをしっかり探し出していけるようになったというところで件数自体はふえておると思います。

○委員長（北川勝義君） よろしいか。

○委員（佐々木雄司君） はい。

○委員長（北川勝義君） 佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） であればというような聞き方をまたするんですが、今、じゃあそういう取り組みをしっかりおやりになられているので、学校の中は平穏な状態であると、以前のような状態にはない、改善したんだと、こういう御説明でよろしいですか。

○学校教育課長（坪井秀樹君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 坪井課長。

○学校教育課長（坪井秀樹君） 平成26年度、今、1学期も同じような調査をしております。平成26年度1学期もいじめは何件が発生しておりますけれども、現段階ではいじめについては解消しているというふうに学校から報告を受けておりますけれども、いじめはいつどこで起こるかわからない、常に危機感を持って対応はしていく必要があると考えております。

以上です。

○委員（佐々木雄司君） はい。

○委員長（北川勝義君） はい、佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） であれば、次の暴力行為の発生件数にお話を移したいと思うんです

が、最後のところに警察等の関係機関との連携を推進していくと、こういったぐあいにお書きいただいているんですが、前回の委員会的时候でも私は御指摘をさせていただいたんですが、やっぱり学校に警察が来るということについては、親御さんのほうから非常に敏感な反応をいただくことになっております。自分の子供からとか近所の人たちのお話から聞くと、赤磐の中学校、小学校、大分落ちついてきてよくなりましたよね、こういったぐあいに皆さんお聞きになられているわけです。そういう中で、また他方、近所の奥様方とか、または自分の子供から、きょう学校に警察が来たんだってってこういう話になると、また何かあったのかなと、こういう話になるわけです。それで、非常に動揺されるということがありまして、私の考え方としましては、なるべく用事がないのに、御家庭の動揺を引くというようなこともありますので、警察関係の方に学校のほうに無理に立ち寄っていただく必要というのがないのであれば、最低限避ける努力というのはしていくべきではないかなと、こういったぐあいに思っているんです。でも、こここのところには警察等の関係機関との連携を推進していく、推進していくと書かれているわけですから、その考え方とはまた真逆の方向に行ってるのかもしれない。

そこで、済いません、ちょっと長くなるんですが、僕の経験則で持論を話させていただいたんですが、僕は中学校のときに非常に悪くて、中学校の先生とかに大分御迷惑をかけてきました。振り返りますと、先生方に御迷惑をかけてきたのが、もう佐々木はだめだということではんと突き放されて、あのときに何でもかんでも警察にというような形をしていたら、僕は果たしてその先生とおつき合いが今どうなっているのかなと疑問に思うところがあるんです。でも、こういった教育のことに关しまして、僕も非常に積極的に、特に今は人間教育、問題行動のある非行性のある子供に対して積極的にかかわっている中で、自分だけではなくてそういった僕を見詰めてくれた当時の中学校の先生方に御意見をいただきながら、アドバイスをいただきながらしているんですが、果たしてそういうことが、この年になって、もしあのときに先生がぼんと突き放して、佐々木はということで警察に警察に、もう何かあれば、佐々木、警察なんだというふうにやられていたとすれば、果たして僕がその先生方と今のような信頼関係、僕の一生の宝だと思っておりますよ、その先生方とのかかわりというのは。一生の宝だと思っております。その宝を僕は得れたのかなと思えば、この学校教育現場に警察の方々が入ってきて、何でもかんでも警察だ警察だと、余り学校内の教育というような性質のものから離れたようなものがそのこのところに入ってきた場合、その子供たちは将来僕と同じような宝を得ることができるのかなというふうにと考えたら、僕はちょっとやっぱり違うんじゃないかなと、こういったぐあいに思うんです。

だから、この推進していく、何かあったときには御協力いただく、対応いただくというのは当然のことなんです、そのところを余り拡大解釈して、本来学校の中の正義、平穩を保つのは誰の責任なのかというところを考えてまいりましたら、その部分で僕は非常に力を入れていただきたいなど、こういったぐあいに思っているんですが、これはやっぱり推進していくん

ですか。

○教育長（杉山高志君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 教育長。

○教育長（杉山高志君） 佐々木委員さんのお気持ちは大変よくわかります。ここでさらに警察等の関係機関との連携を推進していくという、今、学校、警察が常に学警連という組織で年に2回開いております。しかも、場所は赤磐警察署の中で開いております。委員さん御心配するような点では決してございません。学校、警察の連絡会を大事にしていきながら、学校は、委員さんが以前御心配されておりました学校警察連絡室の件も含めますが、これはあくまで学校の要請がない限り学校へは立ち入りません。しかも、必ず赤磐署生活安全課に連絡をとり、そこでなかつこれは必要であるという判断のもとで学校へ入ることがあるかも知れません。ですから、決して今までの方向とは変わっておりませんことをお伝えいたします。

以上です。

○委員長（北川勝義君） よろしいか。

○委員（佐々木雄司君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） 佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） ぜひ、そういったことを守っていただきたいと思います。というのは、私の経験則で先ほど申し上げましたが、やっぱり今、自分が中学校のときに担任をしていただいた先生方との今でのきずなというのは、中学校のときに、佐々木が悪かったときに何でもかんでも外部に頼るのではなくて、全力をもって僕に向き合ってくれた、このところの信頼関係というものが今の僕の宝になっていると思っています。同じようなことを僕は今の赤磐の子供たちにも感じていただきたい、将来。こういったぐあいに思っていますので、そこら辺のところはぜひとも考えていただきたい、保持していただきたい、要請といたしますか、お願いを申し上げておきたいと思います。

私のほうからは以上です。

○委員長（北川勝義君） 意見ということでよろしいな。

○委員（佐々木雄司君） よろしいです。

○委員長（北川勝義君） 他にありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） ねえ言うてあるんじゃ。

他にありませんというて、私、ちょっと関心。

このこと全体じゃないんですけど、全体の流れで、学力とか学習状況の調査とかというのは、これは必要なことなんじゃけど、今、全国によっては、市町村によって県によって公表することせんところがあるというんで、赤磐市は順位は出して、いろいろあるんじゃけど、そこら辺の考え方、今どうこういうんじゃないんですけど、今後のとき、市長を初め教育長、検討

していただかにはおえんと思うんです。例えば言いましたら、中学校単位で出すとしたら、赤磐市の中で地域別に出すとしたら、吉井地域1件とか赤坂地域1件、山陽以外は皆1件じゃから全部わかるようになるでしょう、熊山も含めて。じゃから、出し方を考えていただいて、ああここじゃろうなというのが想像できても、ここじゃというのがわかるようなことは特定できないようにしていただきてえと思うんです。先生も一生懸命やりようるし。

せえから、今さっき佐々木委員が言われたこともようわかる。僕らもなかなか意地が悪かってそこそこ迷惑もかけたこともあるんじゃないけど、別に昔のときは、一応佐々木さんと僕、ちょっと年が違うけど、よう立たされたり殴られたりするんもしょっちゅうじゃったんで、今ごろはそういうことは、小田議長やこうのときはしょっちゅうあったと思う、小田議長がじゃねんで、時代のときは。体罰じゃねんじゃないけど、先生が少々怒ったり、げんこつ入れられるのは当たり前じゃったんが、今そういうことを学校でちょっと言葉のあれでやって、ちょっと引張ったというたら、校内暴力、先生が振るうたんじゃというて先生がやめにゃあおえんようなことになるから、難しいところもあると思うんで、いろいろなことがあったんじゃないかと思うんで。

ただ、ここで問題行動のことも絡んで全体のことを言よんですけど、調査をして、どのようにこれを生かしよんですか、聞いてえの。調査をすることは大事なんですよ、公表も。調査をどう生かしよんか。何でもこういうことを言ようというたら、今現在で赤磐市は、たしか光成委員が言われて、言われたから言うんじゃないか、いろいろあって、僕らもそれは賛成んじゃないけど、35人学級が実現してきて、やられるということ、落ちついたとかきめ細かくできるということであるんですけど、国のほうの方針でいうたら、それして何の効果があったんなと、ありゃあへんじゃないか、今度は40人にしてもええんじゃないかとか。それから、道徳教育の時間をつくらにゃあおえんじゃないかということをもうしきりに言うて。昔の猫の目農省すわ。農省は転作せえというて、転作すなというて、2年に1遍ぐらいころころころ変わらようて、農水省の言う逆をしょうりゃあもうかるような気がして、変な話じゃねえですけど。これもやっとうこういうことをやっていき出したらまた変わってきたりするんで、国の制度じゃというて、これは市長が答えるんか教育長か。どうするんですかな、今度はまた35人学級やめて40人学級にせえとかというようになってきて、もう国が言うてきたらすぐ受けるんですか。それで、道徳の時間もつける、道徳は悪い言ようりません、必ず必要なことで、家庭と一緒にやらにゃあおえんこっちゃけど、そうしてくることに授業時間が減るでしょう。そうしたら、結果的に学力が減ることで落ちてくるということの可能性もあるし、自慢話するんじゃないけど、僕の同級生、なかなか頭えかったんですよ。僕の同級生で分数もようせん、ほんま引き算ようせんのも結構おったんですよ。今社会へ出てその人がおえんことはねえ、しゃんとして会社しようる人もおるんですよ。分数とは言わんですけど、すげえ奇抜なことを考えるんもおるんでいろいろわかる。勉強だけじゃねえけど、学力だけで十把一からげもいけん

し、いろいろ考えたら、この結果が出たことでどのような運用するかという考えがわかりゃあ1点。

それからもう一点が、35人が40人学級とか、例えばいろいろ。道徳教育はええと思よんです、わかっとんです。なったときに市はどのような対応するんじゃないかと思うて。また、はい、ほんなら40人に戻しますよというてやるんか、今のようにやっていただけるんか。

それから、頑張る学校応援事業の優良実施校のことについて、これは新聞をいただいたんでよくわかってええんですけど、これはいつまでやられるというんか、これも岡山県が30校でやって、今決まって、中にはどっかの市町村はもううちは要らんと、こういうことじゃというて辞退しとるとこもありますわな、岡山県下の市町村で。じゃけど、こういうなって僕はええと思うとんですけど、これがいつまでやってもらえるんじゃないかというのを聞いてえんです。県のこっちゃけんわからんというのもあるんじゃないか。ことしはこういうこって、山陽西、石相、高陽中学校ができた。しかし、ほかのどこ、欲しいというところもあると思うんです。いつまであるかというのがわかりゃあ教えていただきたい。その3点をお願いしたいと思います。

○教育長（杉山高志君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、教育長。

○教育長（杉山高志君） まず、状況調査等の結果の活用につきまして、これは本資料でしたら20ページ等にこれらの調査の結果、特に1点、2点、3点を頑張っていこうという一つの方向性が見えてまいりました。

それから、問題行動等につきましては、例えば不登校の児童・生徒への対応については、初期対応、欠席3日目までの対応が大切であるというようなこともわかってまいりました。暴行行為等については、先ほども指摘がありましたが、本当にかかわってくださる先生方、もうこの大切さというのは、これは今まででもわかっておりましたが、そのために、少しでも対応がゆとりを持ってできるように、現在市費で各学校へ支援員等を配置しております。そういうための資料として活用させていただいております。

35人学級等につきましては、市長のほうからお願いいたします。

○市長（友實武則君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） 市長。

○市長（友實武則君） 35人学級の今後の方針をということなんですけども、現在35人学級が赤磐市の小学校全校で実施されてます。内容は、小学校4年生までは岡山県が教員を配置してます。5年生、6年生については、赤磐市が独自に配置しております。この結果といいますか、実施した後の学校の状況等を私も現地へ行って見させていただいておりますけども、これは非常に効果を上げているという実感を持っております。新聞等で書かれてるような35人の弊害というのは私には確認できませんでした。

したがって、40人学級がいいか35人学級がいいかという、絶対に35人学級のほうがいいと、赤磐市ではそういう結論に達しております。その状況が続く限りには、赤磐市独自でもこれを継続していきたいというふうに考えているところでございます。

国のほうには、この春にも岡山県市長会を通じて、全学年、県のほうで教員の配置をしていただくよう要望をしているところでもございます。そうしたことで、赤磐市としての方針は、これが特別弊害があるということが認められれば考え直しますが、それがない限りには継続するものと私は考えております。

以上です。

○委員長（北川勝義君） 頑張る学校は。

はい、教育長。

○教育長（杉山高志君） 済いません、落としておりました。

これは、表面上、要綱には一切出ておりませんが、県の心のうちとしては3年間ぐらいをというお考えのようであります。これはまだ一切報道等でもされておられません。

以上であります。

○委員長（北川勝義君） 僕が何が言っていたというたら、玉野じゃとか、教育委員会から必要ねえと、比べたりするから要らんというようなことが出たところがありますが。ほんなら、そこは除いて、今度はそれ以外のとこだけするん、これもナンセンスじゃと思うんですよ。県のことを考えというのはおかしいけど、僕はやるんじゃったら全部やってもらいてえと思うたりして、あと二、三年、あるんじゃたらというても全体には回りませんが。問題ねえとこへせえというんじゃねんじゃけど、やっぱりこういう一生懸命取り組んで頑張るんじゃというたら、僕は悪いから頑張るといより頑張ってなおようになるというようなことをしていただきてえと思うたんで、逆に言うたらここを、教育長は全部見られてわかつとるかもしれんですけど、前々教育長も理解しておりました、土井原教育長も。僕は見て、うちの関係も学校もいろいろあります。じゃけど、見とったら、50人とか100人とか小さい学校があるでしょう。やっぱりそれはもう物すごままとめて、僕が今知つとる限り、仁美小学校、城南小学校じゃ、ほか余り行ってねえからわからんですけど、いじめやこう100%ねえと思うとんですよ。上級生が下級生を指導するというんか、連れて帰るんも一緒に、全部行動してきょんも、これが大変言い方は悪いけど300人じゃとか400人の学校になったら、うちの関係でも嫁も山陽西小学校へ行きようたときは1,200人ぐらいのときに行きようたら、やっぱりそういうときじゃたらあったかもしれんのんじゃねえかと思うんじゃけど、いろいろ思うたんですけど。教育長、これは岡山県の事業で、市長にも聞いてえんじゃけど、どうも応援費100万円もらえるけんどうこうという話ししょんじゃねんじゃけど、僕は逆に言うたら100万円もろうても全部どっこも同じようにしてあげりゃあええなと思うたわけです、代表は3つがもろうても。僕の考えですよ、考え方。それは事業的にできんのんかもしれんけど。

それから、今言う、問題がある学校じゃけんやるんじやのうて、頑張りようるけんやるという、いうたら岡山県の善行賞じゃな。善行賞をもらえるような、そういう感じのようなことをやっぱり考えていくべきじゃねえかなとちょっと私は思うたんで。

せえで、今ここで言うたら問題がある学校だけしかもらえんようになりゃあ、もうあとはそう問題ねえん。いや、あと問題がなかったらもらえまあ。教育委員会が出すんじやろ。立候補するわけじやろ、要するに。いや、立候補せんのか。いやいや、立候補するんじやろ、どなんんです。ちょっとわからんで聞きよんじや。

○教育長（杉山高志君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、教育長。

○教育長（杉山高志君） 各学校が今回応募してみようということで……。

○委員長（北川勝義君） じゃけ、立候補じやろ、要するに。

○教育長（杉山高志君） はい。それを受けて、私たちが県のほうへ推薦をいたしました。そういう中で、私たちはどの学校、園も頑張っているんだと、もうその思いは大変強く持っております。

それで、それを事業化、どんなにかできないだろうかというので、当初予算でこういう……。

○委員長（北川勝義君） いやいや、そんなこと言よんじやのうて。

○教育長（杉山高志君） そういう思いを酌んであげたいというものを、できるかできないかわかりませんが、現在考えてはおります。

○委員長（北川勝義君） わかりました。

他になれば他に移りたいと思います。

佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） 僕のほうから1件、落ちてたんでちょっとお尋ねをしたいんですが、頑張る学校応援事業について、高陽中学校でしたよね。携帯電話の持ち込み云々と、これはマスコミなどにも強く取り上げていただいて、赤磐で、ああ先進的なことができたなということでみんな喜んでいる内容だと思うんですが、それに関係する話だと思うんですが、知事のほうから、家庭において9時以降のスマートフォン等々の使用について踏み込んで介入するんだというような方向性が報道などでとられていますけども、これは県の方針としてはそうなんですけど、うちの赤磐市としては、もしそういう方向が出たら、もしですよ、もしで大変恐縮なんですが出たら、うちの赤磐市もそれに倣って家庭の事情に踏み込むんですか。お考えをちょっと聞いておきたいと思いました。

〔委員長交代〕

○副委員長（松田 勲君） 答弁願います。

坪井学校教育課長。

○学校教育課長（坪井秀樹君） 委員御指摘の知事のですけれども、あれにつきましては、山陽新聞と産経新聞と2社で報道があったというふうに聞いております。実を申しますと、市教委のほうにはまだ具体的な説明が届いておりませんので、新聞報道によりましてそのように書いてあるというふうに認識しております。今後、県のほうから具体的な説明については市教委のほうにあるというふうに理解しております。

以上です。

〔委員長交代〕

○委員長（北川勝義君） はい、佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） じゃあ、済いません。そういった報道がなされているということ踏まえてお尋ねをするんですが、一般の家庭において、国家権力の分権を受ける行政があれをなさいこれをなさいと命じたり指導したりするということは、この私たちの日本における民主主義の社会において正しいことなのか正しいことではないのか、そこら辺どういった御見識を持っているのか、そこら辺だけお答えいただいてもいいですか。

○学校教育課長（坪井秀樹君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい。

○学校教育課長（坪井秀樹君） それぞれ携帯電話とかスマートフォンの利用等につきましては、家庭のほうで買い与えているということでございます。そういったスマートフォンや携帯電話等の問題等につきましては、今学校のほうでは、PTAと学校が協力して具体的な利用時間を決めたりとか、そういった実勢のほうを積んでいるところであります。教育委員会のほうからというのではなくって、保護者、地域からというお声が重要ではないかなというふうに考えております。

○委員長（北川勝義君） 佐々木委員、新聞紙上のこともわかって、9時までじゃというのを僕らも読んでいろいろあるんじゃないけど、本議題に余りねえんで簡略に。

はい、佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） ありがとうございます。

担当課長のほうの御見解はわかりました。それにつきまして、教育長と市長のお考えというのはどんな感じでしょうか。

○教育長（杉山高志君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、教育長。

○教育長（杉山高志君） 実は、県のほうから一つおわびがありました。といいますのが、全然私たち教育委員会へも相談なしに先に報道が出てしまったと。本来は、10月31日の県の教育委員会議において取り組みの方向性を確定したいと考えていると。11月1日の岡山教育の日以降、家庭、学校でルールづくりがなされるよう働きかけていきたいという趣旨だったんですが、それが報道へ先に出てしまったと謝りが、きょう、私に来ましたもんですから。

○委員長（北川勝義君） そりゃあ、教育長、先に言うてくれりゃあええのに。

○教育長（杉山高志君） ですから、例えば一番効果的なのは、買い与えた親に本当は責任があるわけです、与えるときに。しかも、与えるときに、もう与えてしまった親できちっともう何時までにしようということが言えない保護者等については一つのいい方向性になるなど。

ところが、9時というても、もう私たちが心配するのは、9時等ってまだおうちへいらっしやらない保護者というのはたくさんいらっしやるわけです。ですから、それぞれの状況の中で、それぞれの学校の実態に応じて、学校、保護者、PTA等がこれから協議していきましようという趣旨のもんですから、協議していく一つの趣旨としては私はいいなと思いました。

以上でございます。

○市長（友實武則君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） 市長。

○市長（友實武則君） 私のほうの見解をとということですが、簡単に言わせてもらいます。

高陽中の取り組みというのは、学校、それから生徒、それから保護者、3者が誓約書を出して自主的に実施すると、これが本当、こういったことをするには理想の形だと思います。ですから、この高陽中の方式が全国へ広がっていくというのは、本当にいいことだと思いますし、これを我々自治体としても目指すべきと考えているところです。岡山県等の政策がどうしていくかっていうのは、これから注視してまいりたいというふうに考えているところです。

以上です。

○委員長（北川勝義君） 僕が口を挟むのも長うなるけえあれじゃけど、教育長、それは先に教育長もそういうお断りがあったんじや言うてください。要らんこと言うような話が。

それから、もう保護者とかがどうこうというて、ああじゃこうじゃ、これはもうはっきり自己責任もあるんじやから、高陽中学校みてえに携帯預きょうとかというて自主的に言われてきたようなとこみてえな参考のええ意味のができていきよんじやから、余りこっちが無理やりに押しつけ押しつけやりようたらかえって反発もできてくるんじやねえかと思えますよ。その辺のことはよう相談してやっていただきてえというんがあるんで、お願いします。

他になければ次に移らせてもらいます。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） スポーツ振興課のほうのB&G海洋センター指定管理の方向性についてはよろしいですか。

何かありますか。

○委員（下山哲司君） よろしい。

○委員長（北川勝義君） はい、下山委員。

○委員（下山哲司君） きょう、資料、前にもろうとったのを持ってくるのを忘れたんじやけど、10月に指定管理のあれを出すということになっとったな、前の資料。ほいで、4月1日か

ら実施するという資料じゃなかったかな、前もろうたの。

○委員長（北川勝義君） そうじゃねえ。

○委員（下山哲司君） ちょっと忘れとったんじゃけど。何できょうになってその話が変わるんか、それを説明してください、もっと詳しく。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（前田正之君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、前田課長。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（前田正之君） 今回、先ほど下山委員が言われたとおり、前回の資料には9月から公募をさせていただいて指定管理者のほうを募集し、12月に議会のほうで御承認をいただき、4月から移行するというような形のことを御相談を申し上げたかと思えます。この指定管理者制度のお話につきましては、この委員会のほうへ5月ぐらいからお話のほうを出させていただきまして、7月と9月の委員会の中では、皆様方のほうからいろんな御心配をいただき、特にいろんなところに関係してきますB&G、そして一緒に指定管理をお願いいたします周辺の施設の利用料のほうを来年4月から、施設もよくなり、そして近隣であるとかそういうところ、市内の状況を見まして、増額させていただくお話を御承認いただいております。

その中でもいろんな御心配をいただきまして、かえって利用料金を上げるというようなことで利用者のほうが減るんじゃないかというようなこともありました。そういった中で、上げた後、約半年程度の状況を見て、余りに利用のほうが下がるようでは再度検討すると。利用料金の見直しを図ることを踏まえての御承認をいただいたというようなことがありました。そういったものがあるさなかで、現在5年間の指定管理制度、特に管理料のところに響いてくる話になってきますので、いろいろと2回の委員会の中で御意見をいただいた以上、事業課といたしましてもここは慎重に、そういったことを解決した後でしっかりと準備をして指定管理のほうへ入っていきたいという結論に現在思っておりますので、今回このようなことを御報告させていただいたというのが実情です。

以上です。

○委員（下山哲司君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） じゃから、いっつも言うように余り軽々し過ぎるんじゃねんかという話じゃ。するというて市長が言い切ってえて、ちょっと委員長が言うたらすぐ変えるじゃという、そんな話にはならんじゃろというて言う。

○委員長（北川勝義君） 今ちょっと、今いうて言うぞ、おめえ。

○委員（下山哲司君） 委員長言うたんじゃけど、そりゃあ。意見でな。

○委員長（北川勝義君） 委員長が言うたからじゃなしに、意見じゃ。

○委員（下山哲司君） じゃから、それはせえでええんじゃ。

○委員長（北川勝義君） ようねえわ。

○委員（下山哲司君） あれ、資料では1,000万円減額できるという資料を配つとるわけじゃけん、委員に。それから1年延ばすということじゃろ、今の説明でいえば。何でそんなことになる。そんな軽々しゅう。それは市長が答えにゃあおえんことじゃけど、ちょっと余り軽々しい。今までもずっと言うてる。物事を軽々しゅうやり過ぎるんじゃないんというて言うてるのに、はあ言うた口の先からこんな軽々しいことが起きるんかな。余りにもお粗末過ぎりゃあせん。1,000万円も違うんじゃろ。

○委員長（北川勝義君） ちょっと、ええですか、下山さん。

○委員（下山哲司君） うちの地区でいうたら、地区の中に500万円ほどの事業をお願いしとつても10年たつてもまだできん。1番地で同じ草生地内じゃからな。そういうところで1,000万円浮くことが、1年延ばしたら2つもできるじゃない、事業が。考え方によりゃあ、お金でいうんなら。もっと周りの環境を考えてよう、一度言うたことはきちっと実行するようにしてもらわにゃあ。それで、職員だつてもう配置の人数のあれは決まっとつたんじゃねん。3人おるんじゃ、あそこに。置かんことにしとつたんじゃろ、もう来年から3人。行き先は決まっとつたんじゃないん、もう。そういうことからして、どうも物事が余りにも軽過ぎる。さっき委員長、わしが言うたら一委員が言うたらというてぼっこう言うたけど、そういう問題じゃねえと思うよ、これは……。

○委員長（北川勝義君） ちょっと待てや。ふざけやがったらこらえんど、おめえ、なめやがってから。

○委員（下山哲司君） 何が。

○委員長（北川勝義君） ちょっとええかな。

○委員（下山哲司君） いや、わしが……。

○委員長（北川勝義君） ええか、終わったか。

○委員（下山哲司君） まだ終わってない。

○委員長（北川勝義君） 言ええ、ほんなら、早う。

○委員（下山哲司君） じゃから、そういう委員長が言うたら変えるのは……。

○委員長（北川勝義君） 一委員じゃねえわ。ふざけやがったらこらえりゃへんぞ、おめえ。

○委員（下山哲司君） そういう話じゃあありゃあへんよ。資料出してやりますというて言うたもんを、そのくれえの理由。料金と何の関係あるん、それ。

○委員長（北川勝義君） おめえらのときすぐやめたがな、執行権じゃがな、これはもう。

○委員（下山哲司君） やるといって決めたことを変えるのが。余りないと思うよ。

○委員長（北川勝義君） わかりました。

○委員（下山哲司君） 市長、答弁願います。

○委員長（北川勝義君） 答弁の前に一言言うときます。ふざけたことを言うちゃあおえん

よ。私が言うたのは、そういうなこと、1,000万円が不足するからせん言よんじゃねえ。知らん者が聞いたら1,000万円要らんのをする。下山さんが言うのは一委員が言うたり、市長、部長、認めとるこっちゃからわしが言よんじゃ。せえから、今言よんのは、僕とほかの人も言うた。施設が同じじゃったら利用量が下がるんじゃねえか、上げたら言うたん。何ら遜色ねえというて。施設は負けん、同じように整備できた施設じゃと。ほんなら利用量が下がったらどうするんな言うた。利用量が下がったら全体値が違ってくるんじゃねえかということ提案したんじゃがな。何が一委員長が言うたけえ、ふざけたことを言うんじゃねえ。それとこれとは別なんよ。やるやらんのかとは別じゃけど、やるなと言うたんじゃねえ。

○委員（下山哲司君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） 最後までちょっと待て。

○委員（下山哲司君） 答弁、答弁。

○委員長（北川勝義君） 答弁ちょう待て。

最初が使用料というたろうが、4月からやるというて。遜色はねえ、同じ箇所のできるかというたら、松田さんも言われたが。同じとこへ行くんじゃ、そっちへ行かんようになって、同じ使用料が高くなった、その調査をやってみてやらせてもらうからという話から考えたというんじゃったら、それとまた全然言ようる話が筋が違うのを一緒の話にしてくれな、おめえ。むやみやたらに言うんじゃのうて。せえで、500万円事業できんのあったらせにゃあええが、したかったらすりゃあええがな、おめえ。そねんなことは執行権じゃ。わしらが絶えず言うた、執行権に介入する、下山さんが一番言ようたがな。これは個人攻撃の話じゃのうて、わけのわからん話を人の名前をつけたりして言うんじゃったら、僕が言よんのは事実のことがあったから言ようたわけ。事実認めたから言ようたけえ。それ今言よんとは、これは僕は指定管理をするなと言うとりゃあへん。指定管理する前に事業量のことを考えて、減ったらという話をしたんじゃ。これはほかの人も言われたがな。その話じゃったよ。それも踏まえて答えてください、市長。

○市長（友實武則君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） 市長。

○市長（友實武則君） この吉井B&G海洋センターの指定管理者制度について、過去2回の本委員会へも相談をさせていただいております。その中で、利用料金、これを赤磐市の財産のためにも値上げをさせていただきたいという御説明もさせていただきました。その中で、この利用料金が高いということから利用者が減少するということがあってはならない、これは当委員会の皆さんの意見と私、同感に思っております。したがって、どういう結果が来るか、これをはっきり確認した上で指定管理に導入するかどうかというのを決めていきたい。それまでにいろんな形で地元を含めた混乱を導くのはいかなものかという判断から、これを一つの結果が見えるまで保留しようということで、今回の判断になったものでございます。決して軽い判

断ではないということを御認識いただければというふうに思います。

以上です。

○委員長（北川勝義君） 下山さん、ちょっと待って。

今言ようけど、僕は前のときの山陽ふれあい公園の指定管理のときも意見言うとするわけ。僕は2つあると、B&Gと公園が、こういう施設があると。そのときどうするんならというて、受けてもらえるんじゃないかと、そういうところが受けるんじゃないかとこの話をやったと思う、初めに。これは、話は次になるから、中央図書館の指定管理の話だけ出よう。吉井の図書館、熊山の図書館、赤坂の図書館、どねんするんなという話。そういうことを詰めてやってくれえということが僕の第一前提じゃったわけじゃ。B&Gとかというのは関係のうて、山陽はふれあい公園という名前じゃけど、そこらもあつたから言わせてもろうたんで、考え方が間違うとする、僕は思うとりませんし、せえから今、決して市長の言うたことに納得がどうこうという話じゃねえ、ただ利用料金が云々ということはいったかった。利用量が下がった場合どうするんなら、検討してもらわにゃあおえんという。利用量が下がってきたら今の出しとる計画は全然違ってくるわけじゃから。そこんところがわからなんだらいけんのじゃねえかなと思う。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、下山さん。

○委員（下山哲司君） 委員長がどうこうじゃねんじゃ。

○委員長（北川勝義君） じゃつたら言うな、おめえ。

○委員（下山哲司君） それが起点になつとるから言ようわけじゃ。

○委員長（北川勝義君） 起点じゃねえが、皆じゃがな、あほな話。

○委員（下山哲司君） 一旦出してやりますというたもんを、そう簡単に変えてえて、それが軽うなかつたら何が軽いんで。

○委員長（北川勝義君） 井上やこうようやめたがな。

○委員（下山哲司君） 軽い重てえの話はどこでとるん。どこが尺度で。そうでしょう。自分らが、執行部が出して公募してやりますと言うたことが、何で委員会一遍やったら変わるんなら。料金と指定管理と関係ないじゃろ。

○委員（北川勝義君） 関係あらあや。

○委員（下山哲司君） それほどの尺度になるんかな、料金が。それがいっつも言よう軽い話じゃが。じゃから、ええかげん言われるようになるんよ。自分が言うたことを言うてええように議場じゃ言うんじゃ。途中から言やあ、そりゃあ前のことは言わんわな。議事録のねえ時間帯にしゃべつとんじゃから。議事録ねえ、何ぼ探してみてもなかつた。よう考えてみたら、議事録載らん時間帯にしゃべってえて、それが総務委員会で皆了解したんじゃというようなことからスタート切つとんじゃない。それと一緒に、これでもそうじゃが。出してきたものをど

うして変えるんならというて聞きよん。そんなことは理由にならん言よん。答弁願います。

○委員長（北川勝義君） ちょっと待って、議事録というのは何。

○委員（下山哲司君） 映画の話じゃから、例え話。

○委員長（北川勝義君） はい、市長。

○市長（友實武則君） 今回の指定管理者制度の方向性については、この変更した理由というのは先ほども申し上げたとおりでございます。繰り返しになりますので内容は省略しますが、地域の利用される方々の混乱を避けるためには、この方法が最善と判断した次第です。

以上です。

○委員長（北川勝義君） よろしいか。

下山委員。

○委員（下山哲司君） せえじゃったら、料金上げずにやりゃあええが。そうじゃろう。

○委員長（北川勝義君） 決定したかな、議会で、条例で。

○委員（下山哲司君） ようけ上げたからというて1,000万円も浮きゃあせんのだよ。どういう尺度でしとんか答えてちょうでえと聞きよんじゃから。料金上げるがために1年おくらせたら1,000万円余分に要るんでしょ。料金上げなんたら困るんかな、その1,000万円。どういう尺度かそれを答えてください言よん。言葉で言やあ、そりゃあ料金がかかわつとるからそうするんじゃという。そうじゃねえ、あんたは、10月で公募して4月1日からやるというて資料まで出しとんですよ、口頭で言うたことじゃねえよ、こりゃあ。きょう忘れてきたけど。それが、一委員会が終わったら180度違うような話にはならんでしょ、これは軽いんじゃねんかなというて言よんじゃ、やりようることが。それが軽うねえ言うんだったら何が軽いんですかと言よんじゃから、答弁してくださいよ。

○委員長（北川勝義君） はい、市長。

○市長（友實武則君） 委員長。先ほども説明いたしましたように、この利用料金が上がったことによって利用者が減るかもしれない、その危険性があるということで、この混乱をこれ以上させないためにこういう判断をさせていただいたということで、数値的な尺度があるわけではございません。

以上です。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 市長が同時に出しとんじゃから、そうでしょ、議案を。料金の問題と指定管理と。それだったら、何でそういうあれをするん。同時に出さなきゃあええんじゃが。同時に出してえて、どっちが尺度が大きいかわさいか聞きよんですが。

○委員長（北川勝義君） 同時じゃねえ。

○副委員長（松田 勲君） 同時じゃない。去年。

○委員（下山哲司君） それは執行は一緒になるがな。

○委員長（北川勝義君） 同時じゃねえわや。

○委員（下山哲司君） 4月1日から指定管理にする言よって。

○委員長（北川勝義君） 違うがな。同時じゃねえがな。

○委員（下山哲司君） じゃから、影響及ぼしとんじゃけん同時じゃが。

○委員長（北川勝義君） へ理屈じゃ。それは違うわ。

○委員（下山哲司君） へ理屈、あんたの言ようことがへ理屈。

じゃから……。

○委員長（北川勝義君） ちょっと下山さん、下山さん。いつ出したか、執行部ちょっと調べてん。

○委員（下山哲司君） そういう問題じゃ、出したことが理由なんじゃから。

○委員長（北川勝義君） 執行部調べてん、いつ出したか。いつ出したか調べて。条例改正するんと。

○委員（下山哲司君） そうでしょ。おかしいと思わんかな、誰が考えて。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（前田正之君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、前田課長。

料金はいつじゃったかな。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（前田正之君） 料金の改定は、6月本議会で御承認をいただくということで出させていただいております。

なお、施行につきましては27年4月1日ということです。

○委員長（北川勝義君） よろしいか。

はい、下山委員。

○委員（下山哲司君） 答弁せんの、市長。どう考えても、誰が考えても、資料で出したものを引っ込めて、どっちが大きいんか、議案としてどっちが重たいんか説明くださいよ。そのほうが重たいんかな。

○市長（友實武則君） はい。

○委員長（北川勝義君） はい、市長。

○市長（友實武則君） 答弁、繰り返しになってしまうんですけども、何度も言わせていただいておりますけども、この料金と指定管理、これは利用される方の混乱を避けるというのは極めて重要と考えたところから、これを指定管理に移行するのを少し様子を見ようという判断をしたもので、これはやむを得ないと考えているところです。

以上です。

○委員長（北川勝義君） よろしいか。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、下山委員。

○委員（下山哲司君） 料金のほうを後にしてもええんじゃねん。ウエートの小さいんじゃから。金額がどんだけになるんですか、それだけ上げたら1年間の利用料が。

○副委員長（松田 勲君） 料金は議決したが。

○委員（下山哲司君） じゃあない。じゃから、施行はまだしとらんのにじゃから。じゃから、どっちが大きいんですか、ほんと考え方によって。どういう尺度で判断しょうるかを答えてくたせえって市長に言よんで。理由はそうなんじゃけど、その考えた根源を答えてくれえと言よん。

○委員長（北川勝義君） はい、奥田次長。

○教育次長（奥田智明君） 来年4月からの料金の改定につきましては、6月議会のほうでお願いをさせていただいたところでありますけれども、そのときの議会へ出すこの委員会でいろんな話をいただきました。その中で、僕のほうも市の中で統一するとかという話もしましたが、やはり肝心なのは、上げたからといって人が減ってはだめだ、そういうのをしっかり見にゃあいかと、いろんな皆さんの御意見をいただく中で、本会議のほうについてもお願いしたということでありました。そういう中で、料金を上げた後の利用の状況を見るというのは本当に大事だというふうなことを考えております。

以上です。

○委員長（北川勝義君） よろしいか。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、下山委員。

○委員（下山哲司君） 言ようことは言葉じゃけん、そりゃあそう言わなんたら言いようがねえ。

じゃから、どっちがウエートが大きいんですかというて聞きよんじゃから、料金上げるんがウエートが大きいんか、指定管理するんがウエートが大きいんか、金銭的な面もいうてどっちが大きいんですかと言よんじゃから、どっちが大きいか答えてくださいよ。

○委員長（北川勝義君） 誰が答えるん。

はい、奥田次長。

○教育次長（奥田智明君） まだ確定してないような料金の、4月1日から確定しますけども、1年間のうちで変わるというふうな中での指定管理を5年間するというのは、やはり失礼なことだというふうに考えております。まず、施設の使用料金を固めていくというふうが貴重だというふうに考えております。

○委員長（北川勝義君） よろしいか、下山委員。

下山委員。

○委員（下山哲司君） さっきの話で、状況が変わったら考えるのも変わるの当たり前じゃ

という言うぐらいでさっきの話も出よかったけど、そういう話が出るぐらいじゃったら、状況が変わって指定管理したほうがウエートが大きいんか、料金を上げたほうが大きいんか。その辺の答弁を、どっちがウエートが重たいんか聞きよんのに、片一方は議決してとるから、こっちはまだ出ただけじゃから議決して、そういう問題じゃないが。ええほうへするというのが改革なんじゃろ。ええほうをしよう思うて指定管理するんじゃろ。それを投げてえて、何が200円、300円の1回の使用料の話を1年で3人、どっちがウエートが大きいか答えてくたせえ言よんじゃが。

○市長（友實武則君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、市長。

○市長（友實武則君） この金額だけでいいますと、指定管理によって軽減されるコストのほうが多面的には大きいかもしれません。しかしながら、この指定管理の管理者が運営していく中でも、料金に起因した利用者の増減というのは深刻な結果を生むことになるかと思えますので、この料金問題がどう利用者にとって影響するかを見きわめた上で指定管理を考えていくのが妥当と判断したということでございます。

以上です。

○委員長（北川勝義君） よろしいか。

○委員（下山哲司君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、下山委員。

○委員（下山哲司君） 広報の中へこんなもんが入るとるな。広報の中にこれ入るとる、B & G。これが今B & Gの主役じゃない、これ見たら。違うんですか。これ、広報の中にあつたんですよ、きのう。何日に来たんかな、広報。これが入とつたん、これが。広報の中へ入とんじゃ言うん、あかいわ広報。

これが。これがB & Gを動かしょんじゃないんかな、今現在、実質的にやあ。これは寄附した人もおる、ようけ、初めて見るんじゃが。僕がこれ見たのが土曜日の日かな。土曜日の日に見たんじゃけど、広報が来とつた、広報の中に挟まとつたん、これが、なあ。これ、こんだけのもんをやとる者がで、相談したんかな、ここへでも。市長や教育次長の判断で1年延ばすような話をしたんかな。こうやってやったださる皆さん、前にも僕は言うたけど、努力しようられる方がおられるのに、もう指定管理が4月1日からじゃというて皆さん知つとるが、話の中では、こうやって一生懸命やりようられる方は。それがで、これらも否定したことになるよ。もうちょっと政治をする人間は真剣に物事を取り組まにやあ、机の上で料金がどうじゃ、紙の上でいう話じゃありやせんよ。こういう実態があるのに。どういふうに、もうほんならもうぼっこうやらんから、もうやめる。

○委員長（北川勝義君） いやいや。

○委員（下山哲司君） よう考えてくたせえよ。

○委員長（北川勝義君） 今の言ようること、ようわけわからん者がようけおるんで。あの分は、吉井地域の広報あかいわの中の吉井地域分には、配布の中へ折り込まれて入っております。例えば、山陽の分じゃったら山陽のだけ入るとかというように感じで吉井分で入ったりしますから、ということです、それは。

せえから、下山委員言われるのは、一般質問でやりやええし、反対じゃったらやられりやええんで、今言ようことの流れの中でやることを、せえからええ悪いは別で、考え方は同じことを、市長も同じことを繰り返しようられるし、同じことを質問せりようるし、やりりよんで……。

○委員（下山哲司君） はい、委員長、最後に……。

○委員長（北川勝義君） そのことについては、今弁解じゃねえけど、そういう案内の書類が入ってます。ただ、どこが相談したとかせんとかという話じゃねん。そこが受ける、そこが受けるような前提で物を言われたら指定管理もくそになりやしません。どこへなるんかわからんで、それはそういう話はせんほうがえんじゃねえかとちょっと私は思うたんで、そうかもしれませんし、そういう努力はしようというのわからんことはねえが、それとまた考え方は違う。

○委員（下山哲司君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、下山委員。

○委員（下山哲司君） じゃから、一般質問でも聞いたんじゃけど、一般質問で市長はどねえ言うたかな、覚えとる。それぞれの方に相談して進めてまいりますというて答弁したんじゃない。うそばあつきょうるというて、私はうそはここでは申しませんというて、うそばあつきょんじゃねん。自分で言うたことに責任がとれんのかな、市長として。まああれじゃ、ええんなら、もう赤磐中の人に広報へ書いて、ほんな市長はこう言うたというて出させてもらうけど、それはもっと真剣に真面目に物事を考えてもらわにやいけんと思う。

今言ようた、ほんならこの人らはもう関係のうなるんか、ほんなら。やめりやええんか。これNPOになつとるが、これ。どなたがしようられるか僕も知らんけど。無責任過ぎりやへん、ちょっと。実際にあそこが運営できゅんのは、この方の力で運営できゅんじゃないん。

○委員長（北川勝義君） むちゃ言うちゃ、おえん。

○委員（下山哲司君） たくさんの方が寄附までして、こんなんつくって。

○委員長（北川勝義君） ちょっと奥田次長、答えてあげてよ。

○委員（下山哲司君） もう締めてください。

○委員長（北川勝義君） 奥田次長、ちょっと答えてあげてよ。

○教育次長（奥田智明君） はい。

○委員長（北川勝義君） 運営、スポレクが運営しょおん。B&Gが持つとん。

○教育次長（奥田智明君） NPOをつくられまして、B&G、それから市内それぞれの公共

施設を使いまして、また市内のいろんな施設を使って、t o t oなんかの補助金をうまく御利用する中で、いつでも誰もがこれを気兼ねなく参加できるというふうな地域密着型のスポーツクラブとして、特に吉井地域を中心とした健康づくりのために、そのNPOさんは活躍をいただいております。市長のほうも、そういったクラブのほうは認識しとられまして、元気を出してほしいというふうな答弁だったと思います。

○委員（下山哲司君） はい、もう早く。

○委員長（北川勝義君） はい、下山委員。

○委員（下山哲司君） 市長なあ、自分が答えたことに責任を持つような考え方でしてください。もうこれ以上言うても同じ答えしかせんのじゃから言わんけど、ちょっと無責任過ぎるよ。自分が議場で言うたことの責任がとれんようなことじゃだめですよ。家のことは言わんけど、ここでは、それは議場でなげにゃあ。そういうことですから、よう考えてください。考え直す時間はあります。

○委員長（北川勝義君） 他になければ次に移ります。

○委員（佐々木雄司君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） 済みません。僕のほうからなんですが、スポーツ振興課さんがおやりになられている指定管理者がありますね。ふれあい公園さん、ありますね。この4月1日から4、5、6、7、8、9、10と7カ月経過しているんですが、この間利用者の方から出てきている苦情、要望をどのぐらい把握されてますか。それをどのように改善しましたか。ここで説明してください。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（前田正之君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 前田課長。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（前田正之君） 今、委員のほうからの御質問は、ふれあい公園指定管理者制度で4月からということですが、どれだけ利用者の方、市民の方からの苦情というものを把握しているか、そしてその解決に向けてどのような対応をしているかということかと思います。基本的に、毎月1度報告会というような形のものを、これは定例で行わさせていただいております。基本は、まずその中でありました利用者の方の声というようなものを、こちらのほうは把握させていただいております。ほかにつきまして、随時直接こちらへ入ってくる案件もありますので、そういったことをお互いに共通認識を持ちながら解決しているという、まず流れです。

その中で一度、3カ月の経過のところ御報告させていただきましたが、やはり年度当初にはプールの水質の関係、少し濁っているぞというようなお声をいただきましたので、これにつきましては委員会のほうでも御報告させていただきましたとおり、掃除の徹底であるとかロボット、薬品の使い方等を再検討していただきまして、現在は解決をさせていただいて、特に大

きな苦情はいただいております。

それから、施設の中には、直接そういったことをお声としていただくこともあれば、声の箱というようなことでお声をいただくようなこともあります。これにつきましても、小さなことですが、電気が暗いよとか、もう少しこういった辺は電気をつけてほしいであるとか、そういった施設内の利用にかかわることを聞いております。これにつきましても、現段階では特に何か宿題的な、まだ解決ができていないというようなことを残したままで進んでいるというふうな認識は持っておりません。今後につきましても、定例の報告会を中心に、そういったところ、市民の方、利用者の方に御迷惑をかけないように努めていきたいというのが、現在の考えです。

以上です。

○委員（佐々木雄司君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） 概略を御説明いただきましてありがとうございます。我々この総務文教委員会の委員面々は、そういった概略の詳細の御報告を受けて評価、審査していかねなければいけませんということなら数字が必要ですね。何件、どういった様子のものでその目安箱ですか、投じられて、または教育委員会、または市役所の部署のほうに問い合わせが何件あり、そういったものを詳細に御説明いただいて、これとこれとこれのものに関してはこういった対応をしましたよと、解決していますよと、これとこれとこれについてはまだできていませんよと、その理由はこうですと、こういったぐあいに御説明いただかなかつたら、要するに指定管理、あのときに御説明をいただいた言葉を利用させていただきますと、ここに書いてある言葉と一緒に思うんですけども、財政負担の軽減やサービスの向上を図るということですよ。要は市民利益を高めていきたいと思いますよと、財政健全化の事業費を圧縮していただくだけではなくて、市民の利便性を高めていき、市民の財産価値というものを、よりよい民間の活力を使った運用によって高めてまいりましょうと、こういう話だったように思うんです。であれば、何件、どうなってこうなってというものがここになかつたら、我々判断できないじゃないですか。ということになったら、もし今の段階で、その御用意ができていないということになったら、指定管理の話自体が、もうそもそもどういう意図で指定管理の立案をされているのか、このところの意味合いがわからなくなるのではないんですかと、図書館の話も、じゃあちよつと見直したほうがいいんじゃないんですかと、こういう話になっていくんじゃないかなと、僕はそういったぐあいに思っていますが、もう一度御答弁いただいてもいいですか。詳細な数字をお持ちですか。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（前田正之君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、前田課長。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（前田正之君） 先ほど概論のお話をさせていただきました。

たが、現在正式な数字を持っておりません。大変な失礼な報告というような形で、先ほどのお話を伺いました。これにつきましては、再度整理をいたしまして、また次回の委員会のほうで御説明をさせていただけたらというふうに思います。よろしくお願いたします。

○委員長（北川勝義君） はい、佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） じゃあ、この後図書館の指定管理とかB&Gの指定管理のこの後の話というのは、もうこのままとめていいという話ですね。だって、そうしなかったら審査できないですよ、もともとの根本の話が違うわけですから。

○委員長（北川勝義君） まあそれとは違うんじゃないけど。

○委員（佐々木雄司君） いや、でもそうなりません。そもそもの指定管理の出発点が、もうあやふやな状態で議論をしてるわけですから。どういう指定管理の趣きというのがしっかりと行政のほう把握している、それのもとで私たちはこうやりたいんだという話であれば、この場で議論できると思うんです。申しわけない、そんな話だと、僕審議拒否です。

○委員（下山哲司君） 一人だけ来なんでも困れへん。

○委員（佐々木雄司君） まあまあ。ただ、僕が正しいことを言うとんであれば、そのことについて同調いただきたいということなんです。

○委員長（北川勝義君） 執行部のほうが先ほど、ちょっと市長、ちょっと。先ほど佐々木委員が言われたように、それも一理あるんじゃないかと思えますんで、次の11月のときにやあ、はっきりそういうことも調べてきていただいて、宿題というんじゃないけど、それで検討をさせていただきてえと思うて……。

○委員（下山哲司君） 12月じゃろ。

○委員長（北川勝義君） いや、11月。11月やな。

○委員（下山哲司君） きょう11月。

○委員長（北川勝義君） 10月じゃけん。11月のときに、それも踏まえてやらせていただきたいと思うんで、了承願えますか。

○委員（佐々木雄司君） であれば、ちょっと委員長、確認なんですけど。

○委員長（北川勝義君） はい、佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） であれば、確認なんですけど、現段階で指定管理云々の制度の話が図書館のほうとスポーツ振興課のほうと2件出ていますけども、ここら辺のものに関してもあやふやな状態で、要するにこういった指定管理のお話をされているということでよろしいんですか。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（前田正之君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（前田正之君） スポーツ施設につきましては、毎月報告会をやっておりますが、今委員がおっしゃられたような数字のものはっきりと私どものとこ

ろがまとめていないということで、現在反省をしております。いわゆる口頭でのやりとりでの報告にとどまっております。これにつきましては、来月そういった資料を用いまして御説明をさせていただけたらと思います。

○教育次長（奥田智明君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、奥田次長。

○教育次長（奥田智明君） 図書館のほうの本日も出しております指定管理の導入に向けてという話は、現在事務局なりが取り組んでいる内容の報告ということで、うちのほうは考えております。

○委員（下山哲司君） 委員長、よろしい。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） ふれあい公園を指定管理するときに説明があったと思うんじゃけど、管理状況はきちっと報告するということになっとったと思うよ。なっとろう。それが文書ができてねえというのはおかしいじゃねえの。今どのくらい日にちがたっとん。

○委員長（北川勝義君） 7カ月目。

○委員（下山哲司君） なあ。それで、報告する言うたもんが口頭でというような、またこれが軽いという話になるんじゃが。するというて約束したら、きちっとせにやおえんが。何のために総務委員会があるんやわかりやせん。

○委員（佐々木雄司君） 休憩しません。

○委員（下山哲司君） そうでしょう。

ええん、続けて。

[委員長交代]

○副委員長（松田 勲君） いいよ、続けて。

○委員（下山哲司君） 市長、その辺、もう市長、ちょっと答弁してもらわにやおえん。

○副委員長（松田 勲君） 答弁お願いします。

友實市長。

○市長（友實武則君） 先ほどのふれあい公園の苦情の件数あるいは内容について集計作業が整っていないということで、次回にさせていただきますというふうなことになってしまいました。が、きちんと整理をいたしまして御報告をさせていただきますので、本日の委員会の報告は以上とさせていただきますと思っております。

以上です。

○副委員長（松田 勲君） はい。

○委員（下山哲司君） いやいや、僕が聞いたのは、あの契約をする前に、皆さんの意見があって、きちっと委員会のほうには運営状況を報告するという旨で指定管理を指定したんじゃろ。そしたら、文書にしてきちっとしてなかったら報告できんじゃろう、今までたつて。口頭

で済むような話じゃありませんよ、市長。それが軽いというん。あんたになってから、もう皆どれもこれも軽い。もう少し徹底してやってくれにゃいけんよ、やる言うたことは。それじゃなかったら委員会やこ要りゃあへんが、もう。はい、それこそ委員会を廃止すりゃええが、市長が思うようにひとりすりゃえんじゃ。

○副委員長（松田 勲君） 市長、よろしい。答弁できますか。

○委員（佐々木雄司君） はい。

○副委員長（松田 勲君） はい、佐々木委員。

○委員（下山哲司君） 反省してやりますというて一言言わにゃいけまあ。

○委員（佐々木雄司君） いいですか。

○副委員長（松田 勲君） はい、どうぞ、先。

○委員（佐々木雄司君） 済みません、もう一点なんです。もうお尋ねついでにもう一点お尋ねしますが、前回、ちょっと前、あれはいつでしたか、ふれあい公園を現地視察しましたね、しました。そのときに、ふれあい公園の運営の方から、こういったお声が出ているのが、僕の耳に今でも残っています。いろいろ努力をしていきたいんですが、我々には権限がないので、与えられている範囲でベストを尽くしておりますと、こういうような趣旨の発言を管理の方がしていらっしゃいました。

そのことを私なりに事の経緯に当てはめて考えてみますと、たしか5社の方がプレゼンテーションを行い、力が喫緊する中で、今のコナミスポーツさん&ライフさんというところが運営業者として委託を受けるべき決定をされたわけです。その中には、各社それぞれに特徴のある赤磐市にとってすばらしいと思われるような御提案内容があったわけですが、それを乗り越えてあそこのところが選ばれたというのは、積極性があるとか独自性があるとか、こういったところが選ばれた一つの項目だったように思います。であれば、あのコナミさんから、この7カ月の間に何かその運営するに対しまして、こういったほうが利用者のためになりますからこういったぐあいにしてくださいなというような企画提案的なものというのは何件、こういった内容で出ておりますか。

〔委員長交代〕

○委員長（北川勝義君） 佐々木委員、今B&Gの話をやっていきよりまして、絡みやって、今その中の指定管理という全体の大きい流れでわからんことない、これ11月のときに次回にさせていただきえてという話をしたと思うんです。それで、今言われたふれあい公園は、このときとまた違うんで……。

○委員（佐々木雄司君） いや、関連……。

○委員長（北川勝義君） いや、それ関連を言い出したら皆全部関連になるんで、11月にさせていただこうと思うんで、このくれえで、執行部のほうは11月のときにどのような意見があった、今言われたような意見をよく踏まえて答弁できるように、先ほど下山委員と僕と言い合い

しょうるようなもんじゃけど、わけのわからん筋論のどこを言うてもらやええんで、そういう意味のことで。いや、ちょっと待ってください。そういう意味のことで言うとんじゃねえ、逆の立場もあって言うてる場合もあるんで、勘違いもあったりするんで、ちょっと次のときは整理してやっていただきたいと思うんで、これはここでふれあい公園が議題で上がってんでふれあい公園をやって、指定管理で言うて、そんなこと言い出したら全部が皆なるんで、11月にやらせてもらうということで、そこへ、僕らは、今佐々木さんの言うたこともわからんことはねえ、逆にこのふれあい公園やるときに、B&Gのとはどのようにするなら、僕は議事録もある、僕が言うてる。一緒にそれも考えていただかやいけんというて言うたんもあつたと思います。じゃけど、それはふれあい公園はふれあい公園ということでやられて、そのままなつとつたんじゃけど、話が違うということで区切つとつたんですけど、次回のときにはそういうことにならんようにやっていただかやおえんと思うんで、11月のときにびちつとやって。それで、佐々木委員のは、まだ11月のときに聞きてえことがあるんじゃ、あえて言うとしても簡略に言うていただきたいと思います。

はい、佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） 違うんです、委員長。これは、11月のときに御用意いただいて、調べて用意いただいて報告していただく類のものではないと思ってるんです。今の時点で行政が把握できていないというところが僕は問題だと思っていて……。

○委員長（北川勝義君） 違う違う、ちょっと待って。ちょっと待って、ちょっと待って、ちょっとちょっと。

○委員（佐々木雄司君） その問題、その行政が把握できていないというところが問題であるならば……。

○委員長（北川勝義君） 違う違う、行……。

○委員（佐々木雄司君） 今いろいろなその話をしている指定管理のところのそもそもの市民の利益を高めていきたいと思いますとかというような目的趣旨というものがあやふやになってきますよね、これで本当にできるんですかということ……。

○委員長（北川勝義君） じゃあから、ちよつちよつとちよつちよつ……。

○委員（佐々木雄司君） 今、だからできるのかできないのかという。

○委員長（北川勝義君） 今、違う、何遍も言ようる、今指定管理がどうこういう話をやりよんのは、指定管理をやりましょうというのはあなたも賛成もあり反対もあり、皆議員はしてきたわけ。決まってきて、やり方が悪い、運営が今調査できてねえんじゃ、次のときにはびちつと持ってきてやってくれ言ようる。今も、課長ができてねえかどうかというて言うてるわけじゃねえ。毎月やりよつてやつとるわけじゃろう。じゃから、それをじゃあから報告をきちつと出してもらやええわけ。言葉の言い方で言葉尻じゃねえけど、執行部のほうもちゃんと答えてもらうようにやつとんじゃから、やってねえという話じゃのうて、今聞きよつて、何もやらず

にやって無責任なという、じゃったらこれ指定管理をする意味ねえってナンセンスですわ、それ。大体こういう健康管理に関することやこ、指定管理やこするようになってらんよ、今。指定管理がはやっただけなんじゃ。学校も指定管理しちゃれえ、そんなことできりゃへんのんじゃ。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） ちょっちょっ待って。であるから、このことについてはやっとなんじやったら執行部のほうの市長、はっきりやっとなんじや、やっとなんと、どういう調査、11月にはぴちっとしたこと、できとることも出せるというて言うてもらわなんならおかしいことになる。じゃあからあえて、言葉足らずじゃったら僕も簡略に言よんのが、来月はぴちっとやってくれということと言よんで、そこんところは……。

○委員（佐々木雄司君） いや、できるなら今出してほしいんですよ。

○委員長（北川勝義君） いや、今、じゃあから今出せれんと、きょうは協議事項の中へ出てねえって……。

○委員（下山哲司君） 次……。

○委員長（北川勝義君） ちょっ待って。佐々木さんな、むちゃばあ言うて、協議事項へねえとこのその他でやるんじやのうて、ねえとこのをこっちも一緒じゃからというたら、小学校の建築の話ししよったら、高校の建築の話までなる、もうみそも広げたら切りがねえんですよ。今言よんのは、指定管理の考え方じゃから、じゃけんそれだけはわかってもらわなおえんから。11月のときには出してもらう。きょう出せとか、それはきょう出す。それは後で出してもらうてくださいよ、それじゃったら、僕が言いてえのは。

いやいや、違う違う。今できてねえならできてねえで……。

○委員（下山哲司君） 黙って一月待ちよんだから。

○委員長（北川勝義君） それだけやってもらわなんなら困るんで、それだけは了承してください。

○委員（佐々木雄司君） 了承できん、そらあ。了承できん。了承できん。

○委員長（北川勝義君） 了承できんだったら仕方ねえから、もうそりゃあ、了承できんだったら仕方ねえ。

○委員（佐々木雄司君） いや、趣旨が、僕が申し入れてる趣旨が違う。

○委員長（北川勝義君） 違う違う。違う、佐々木さん、ちょっと、違う、佐々木さん、こうやるからというてコナミのことを、今コナミの話をやりよんじゃねんじや。指定管理じゃけど、B&Gのことをやりよって、コナミのことじゃねえんで、図書館のことになって、次に図書館の中へ入るのはええけど、図書館でコナミの話はまた違うんで、できてねえなら、それはできてねえんじやったらやらにや、これを受けさせたんが……。

○委員（下山哲司君） 運営は委員長じゃから、さっと委員長が切れっちゃ、もう。

○副委員長（松田 勲君） 委員長に従ってください。

○委員長（北川勝義君） 根本的な考えはわからんことはねえけど、いやちよっ、根本的な考えはわからんことはねえ。指定管理はどうせえ、ほんなこれから全部このことを論議してもらう、一つのことをやるのに、どういう考えを持ってやるんかって全部。私は納得いかないからってあした来ませんよというわけにいかんのじゃ、そりゃあ委員会じゃから、皆。

○副委員長（松田 勲君） 委員長に従ってください。

○委員長（北川勝義君） 納得してもらわにゃあ。せえで、次の11月のときにやられるいうんで、ぜひ佐々木さん、来られんというが来てください、そのときには審議しますんで。下山さんも来んでもええやこ言わんように。

○委員（佐々木雄司君） いやいや、僕はそのときに来んというんではなくて、そのときまでこの指定管理のことについての議論、審議は私はしませんよと。

○委員長（北川勝義君） もうよろしい。もうよろしい。もうよろしい、佐々木さん、よろしい。

○委員（佐々木雄司君） こういう話をしているわけですから、そのときに来るとか来んとかという話ししてないです。

○委員長（北川勝義君） よろしい。

それじゃ、他になければこれで終わります。

続きまして、図書館の指定管理制度のことについて報告をいただきました。このことにつきまして、1点、執行部のほうから皆さんのお手元へ配付しておりますが、視察で、これも一度見てはどうかというような話だけのことで、今治市の中央図書館を日帰りで見させてもろうてはどうかというような御提案をしてあります。行かなければ行かなくてもいいんですけど、行けば行くというんで、百聞は一見にしかずというんがありますんでどのようにしましょうか。もしよければ行かせてもろうてもと思うけど。

はい、下山委員。

○委員（下山哲司君） これに見に、これようけい見てきとられる中の一つを見いということでしょう。これ一つだけ見ても、見にゃあわからんけど、詳しく説明をしてもろうた程度でとどめたら、これだけを見たけんというてメリットがあるようには思えんので、それよりはもっと視察するんなら、実質的な視察のほうを見たら価値があるというようなのを視察に入れてほしいと思います。

○委員長（北川勝義君） 場所が悪いということ。

○委員（下山哲司君） はい。これだけある中で一つ見させてもろうたからというて、ほんなら全容がわかるわけじゃないし、その辺はちょっと委員長、考えてください。

○委員長（北川勝義君） いやいや、僕がどうこうというんじゃなくて、こういう百聞は一見にしかずじゃから見てくるのも大事、執行部のほうも、僕はわからん、推察でいやあ日帰りが

できる辺じゃねえかと思うたりいろいろあって、全部見てきて、武雄市へ行けというたら大変なことになるが、武雄市は予算で行けれんからこのけえぐれえ出たんじゃねえかとは思いません。

○委員（澤 健君） はい。

○委員長（北川勝義君） はい。

せえで、私とし……。

○委員（澤 健君） いいですか。

○委員長（北川勝義君） ちょっ、私としては下山さんの言うこともあって、順次とりあえず第1回目の視察をここへ行かせてもろうて、また次はまた行くと、大阪でもどっかよそでも行くというのを意見を出していただければ僕はいいんじゃないかと思うんですけど。

はい、澤委員。

○委員（澤 健君） いや、やはり現地を見させていただいて、総務文教委員会ですから、やっぱり図書館の委託というのは非常に重要な問題なので、これ執行部が出してくだすって、とにかくここを最初に見たほうがいいということで出してくだすったと思うので、ぜひ見に行きたいなというふうに思います。

以上です。

○委員長（北川勝義君） 他にありませんか。

○委員（佐々木雄司君） はい。

○委員長（北川勝義君） 佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） この4ページのところです、用語についてということで、4つ、今治図書館管理センター、図書館流通センター、PFI方式、CCCと、4つのことが書かれていますけども、これはそれぞれの委託運営の形なのだろうと思います。私たちの赤磐市も、これもし本当に指定管理を進めるということになりましたら、幅広く赤磐市の特性に合った状態で運営をしていただくためには、幅広い可能性をするということになれば、これ今治だけ見に行くのではなくて、ほかのところもやっぱり理解する上で見に行かなきゃいけないという話になります。そうなれば、いつぐらいを御予定にされていらっしゃったんでしたっけ。いつ御予定にしていられっしゃったんですかね。

その間には、いろいろ公務も入ります。いろいろな進捗の確認もあります。議会もあります。そういった中で、この4つのところを全ての面々が確認をそのときまでにできるのかどうなのかなというところが、ちょっと私は心配になるなあとというのが意見です。もうちょっと時間かけられたほうがいいんじゃないですか。

○委員長（北川勝義君） 私は思うたのは、どっか見てくるのも一つの方法じゃねえかということだけの話で、一遍に4つ、ここへ出とるの皆3つ、皆全部見にやおえんということもねえと思うし、これ以外のところでもええとこがあったら見に行かにやおえんのじゃねえかとも思う

とります。

それから、先ほどの佐々木委員が言われよった指定管理の話になって、また戻しょんじょねえですけど、指定管理をするんじゃないら、初めからPFIとかで建築していくとか、やっぱそういうもと根本に基づいてやらにゃいけんのですよ。そうじゃなかって、やったところを指定管理しようかということ自体がナンセンスな話で、例えば笹川杯でもろうたんが今度返ってくる、やっぱりいろいろの条件ある、そやったら老人のともやりゃええが、指定管理を皆して、きょう老人のことを言うたら厚生のことを踏み込むなというて怒られらあや。だから、やっぱりちょっと今そう思うたんで、皆さんの意見はあると思うんですけど、ここへ出とんのを全部行くということで執行部はされたんか、とりあえずここへ行ってみるということでされたんか、大体いつごろの時期に行かせていただきてえぐらいで計画されたんか、近隣市町村があったりという考えをちょっと聞かせてください。

○教育次長（奥田智明君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、奥田次長。

○教育次長（奥田智明君） 今回ちょっと視察ということで提案をさせていただけたのが、委員長も言われましたように、本当に皆さんお忙しい中でありますので、日帰りで行ける図書館をということで、実際我々は1日に2つ行きました。そのかわり、もう朝7時に出て7時に帰るとかというふうなことでございました。ここへは、やはり9時に出て5時ごろには帰ってこれるとなれば、ここに出しております今治とか、それから神戸、三田とか、そういうある程度近場に限られるということでございます。

時期についても、できるだけ早い時期にというぐらいのことで、いついつというまでは考えておりません。本委員会で何月何日というふうなことであれば、あとを私どものほうで相手方の図書館と交渉を進めていくというふうなことで一応御提案をさせていただいておりましたので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○委員長（北川勝義君） 光成さん、意見。

○委員（光成良充君） ここに視察先で今治市中央図書館っていうのが出てるんですけど、これの選定は任意ですか。それとも、ここが一番見られていいんじゃないかなっていう形で提案されたのか。もう近いところなら香川県の綾川にもありますし、徳島のほうが近いかなとは思ひうんですけど、この今治を選んだ根拠っていうのは何なんでしょうか。

○教育次長（奥田智明君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、奥田次長。

○教育次長（奥田智明君） おっしゃるとおりでございます。ただ、綾川、これも私が実際に行かせていただきました。導入してすぐということで、そこにちょっと理由も書いております。図書館がなかったんで、そんな異論も何も今までなかったというふうなことから始めとられます。今治のほうは、もう20年からということで、一応実績があります。最初の指定管理し

て、次のかえるときに相手がかわっとったというふうなことから、継続性なり、そういった面の話も聞けたり、ある程度今治については実績があるという中でいろんなお話も聞けるんじゃないかなというふうなことで、一応提案をさせていただいたというふうにお考えいただければ結構だと思います。

○委員（光成良充君） はい。

○委員長（北川勝義君） よろしいか。

○副委員長（松田 勲君） はい。

○委員長（北川勝義君） 松田委員。

○副委員長（松田 勲君） 私も一応報告はいただいているんですが、できれば指定管理がいいのか悪いのか、ちょっとわかりません。そういった中で、やっぱり指定管理を実際やって成功したとこ、また失敗したとこ、いろいろあると思います。そういったとこを全部本当は見たいとこです。ただ、時間とかもあるんで、とりあえず今執行部のほうから言われたとこを見ながら、また時期を見て違うとこを見ていけばいいんじゃないかな。そんなに焦ってどんどん進めることでもないと思うんですが、視察ができるときにはできるだけ日帰りでもいいから、そういったとこを一個ずつ見ながら、やっぱり2つ、3つ見ようと思ったら、前も視察したことあるんですけど、結構忙しくてなかなか見えない、聞けないというのがあるんで、やっぱりじっくり聞いてみたいというのもあるんで、まずは上げられた今治市から行かせていただくというのでいいんじゃないかなと思います。

○委員長（北川勝義君） それでは、皆さんにお諮りします。

視察させていただくということでよろしいでしょうか。よろしい方は挙手をお願いします。

〔賛成者挙手〕

○委員長（北川勝義君） それでは、視察させていただくということでさせて、日にちについては執行部のほうと打ち合わせさせていただいてよろしいか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） 大体執行部はいつごろ、12月になったら、今、先ほど言われた議運があったりするけど、11月の中旬ぐらいで、12日は総務文教委員会があります。その後ぐらいではどんなでしょうか。13、14、15とか。

○委員（佐々木雄司君） 僕は予定いっぱいです、年内。年内予定いっぱい、だめ。

○委員長（北川勝義君） 13、14ぐらい。

○委員（澤 健君） オーケーです。13でいいですよ。

○議長（小田百合子君） 局長、予定は、14は厚生が入ってなかった。

○委員長（北川勝義君） 何。

○議会事務局長（富山義昭君） それは厚生委員会です。

○委員長（北川勝義君） 議長は行けれんがな。

- 議長（小田百合子君） 私東京行く。
- 委員長（北川勝義君） 東京。
ほな13日にさせてもろうてよろしいか。
- 中央図書館長（三宅康栄君） 調整させてください。
- 委員（下山哲司君） はい。
- 委員長（北川勝義君） 向こうは受けてくれるん。
- 委員（下山哲司君） 12日が総務委員会じゃったな。
- 委員長（北川勝義君） 向こうは受けてくれるん。
- 教育次長（奥田智明君） これから連絡……。
- 委員長（北川勝義君） 向こうは受けてくれるん。うちが勝手に日にちをこっちが行くというてやりょうるだけ。
- 議会事務局長（富山義昭君） 候補を2つほど出しておきましょうか。
- 委員長（北川勝義君） こっちが勝手に行くというて。
- 中央図書館長（三宅康栄君） 済みません。一応視察に関する承諾は受けております。ただ、日程のほうなんですけれども、こちらで今お話出ていらっしゃいますけれども、候補日をいただくと助かります。とりあえず11月13日ということで第1候補で御連絡はさせて、11月13日で。
- 委員長（北川勝義君） 17、18、19ら辺は。
- 委員（澤 健君） 20、21日ぐらいのほうがありがたいですけど。
- 委員長（北川勝義君） 20、21……20日はあいとる。20日はあいとるから。20日は。
- 委員（澤 健君） 20日はいいです。
- 委員長（北川勝義君） 下山さん、20日は。
- 委員（下山哲司君） 委員長、それは議会が優先じゃから。
- 委員長（北川勝義君） よろしい、20日は。
- 委員（下山哲司君） 個人的理由を優先できん。
- 委員（光成良充君） 青少年の健全育成がある。
- 委員長（北川勝義君） あっ、それはそれがあつたらおえんわ、20日は。
- 議会事務局長（富山義昭君） いや、夜19時からです。
- 委員長（北川勝義君） あっ、19時、ほんなら間に合う。
- 委員（光成良充君） 帰ってこれます。
- 委員長（北川勝義君） ほんな一応20日を予定で、2日ちょっと予定で聞いてみてください。
- 中央図書館長（三宅康栄君） それでは、11月13、11月20日のあたりで調整させていただきます。

○委員（澤 健君） お願いします。

○委員長（北川勝義君） それでは次に、消防本部の……。

○委員（佐々木雄司君） ちょっと待って、まだできてないです。

○委員長（北川勝義君） 佐々木委員、何。

はい、佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） 指定管理者制度導入検討にかかわる視察実績報告についてということ、別紙資料、これのことですね。

○委員長（北川勝義君） 報告書。

○委員（佐々木雄司君） これのことですね。この中に書いている言葉の解釈をお願いしたいと思います。

赤磐市立図書館、下から左の窓のほうですね、下から3番目。自治体の財政負担の軽減や運営方針に沿ってのサービスの向上を図る上でということなんですが、サービスの向上、ちょっと曖昧なんですが、具体的に申し上げていただけますか。

○委員長（北川勝義君） これはあれじゃろ、ちょっと悪いけど、図書館運営委員会したことでしょう。

○中央図書館長（三宅康栄君） はい、図書館三宅です。

○委員長（北川勝義君） ほんな概略に、簡略にちょっとお願いします。

○中央図書館長（三宅康栄君） はい、わかりました。

こちらなんですけれども、運営方針、とりあえず図書館には図書館の方針がございます。その運営方針をもとにして、いかにサービスの向上が図れるかということの一つ狙いにしております。また……。

○委員（佐々木雄司君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい。

○委員（佐々木雄司君） その運営方針の基本となる図書館憲章たるものがあつたと思うんですが、その読み上げをお願いできますか。

○中央図書館長（三宅康栄君） 済みません。図書館憲章、もしかしたらそれは図書館の自由に関するものでしょうか。

○委員（佐々木雄司君） ああ、そうですね。

○中央図書館長（三宅康栄君） 申しわけありません。ちょっと今手元にないんですけれども。

○委員（佐々木雄司君） ちょっと用意してくれる、必要だから。

○中央図書館長（三宅康栄君） 今すぐでしょうか。

○委員（佐々木雄司君） ああ、出るだろ、うん。

○中央図書館長（三宅康栄君） 済みません。ちょっと今ここには、申しわけございません。

○委員長（北川勝義君） 佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） いや、重要なんですよ、これ。

○委員長（北川勝義君） ちょっと三宅さん、ちょっと。

佐々木委員、これ指定管理の図書館の関係の人が行かれて検討したり実施したとこの報告書なんで、報告を受けとんで、提案を……。

○委員（佐々木雄司君） いや、でも書いている内容についての質問をしているわけですから、直接この言葉の意味を説明してください。

○委員長（北川勝義君） じゃから報告してくれとんで、ここへ聞いとることのを聞いていただけりゃ、今聞かりょんで、その憲章がどうならという話で言うのはえんじゃねえかなと思うんじゃけどな、どんなですか。

○委員（佐々木雄司君） いや、でもここに書いてある言葉がよくわからないんで教えてほしいということ。

○委員長（北川勝義君） どこがわからんですか。

○委員（佐々木雄司君） サービスの向上のサービスとは何ですか。

○委員長（北川勝義君） じゃから、それを答えてください、それでよろしいがな。

三宅さん。

○中央図書館長（三宅康栄君） 図書館サービス、図書館でさまざまな利用者の方にサービスの提供というものをいたします。貸し出しもサービスです。講座とか、さまざまなイベントを通して利用者の方に資料、本などに親しんでいただくような工夫をしていく、それもサービスです。また、赤磐市内いろんな方に図書館の資料を御提供させていただく、これに関しましては、赤磐市には今中央図書館のほか赤坂、熊山、吉井、3つ全部で4つの図書館があります。

○委員（佐々木雄司君） はい、委員長、よろしい。委員長。

○委員長（北川勝義君） ちょっと佐々木さん、ちょっとな、途中とめたらおえんの。

○中央図書館長（三宅康栄君） それを総合的に使いまして、資料の搬送などにより、有効的なサービスを提供しております。

○委員長（北川勝義君） はい、佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） ですが、それは運営方針に沿ってでしょう。だから、運営方針をもう一回言ってください。

○中央図書館長（三宅康栄君） 運営方針、利用者のサービスの向上……。

○委員長（北川勝義君） 三宅さん、三宅館長。

○中央図書館長（三宅康栄君） 運営方針の根底となるものですが、赤磐市民の生涯学習の拠点として赤磐市民の方の生涯学習をバックアップさせていただく、それらになります。

○委員（佐々木雄司君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） 今おっしゃっていただいたもとなる考え方というのは、図書館憲章、図書館の自由云々というやつですよ。ですから、それを教えてください。

○委員長（北川勝義君） 同じような。

はい、三宅……。

○中央図書館長（三宅康栄君） 申しわけありません。ちょっと今図書館の自由に関する宣言、そちらのほうを手元に準備してないんですけれども、図書館の入り口のほうにも掲示しております、知る人の自由……。

○委員（佐々木雄司君） ほな、見てくるわ。見てくる、見てくる、読んでくるわ。

○委員長（北川勝義君） ちょっと、ちょっと佐々木委員は本当ふざけたらいけん、佐々木……。

○中央図書館長（三宅康栄君） 申しわけありません。きょう図書館休館になっております。

○議長（小田百合子君） やめなさい、だめよ。

○委員（下山哲司君） おい、勝手におめえ……。

○議長（小田百合子君） 委員長の許可がないと動いたらだめよ。

○委員（佐々木雄司君） 委員長、どうします。用意してくれるんか、僕が見に行くんか、どっちかよ。これ必要なんですよ。

○中央図書館長（三宅康栄君） ただいまそちらのほうを準備しているようですので、しばらくお時間を頂戴できたらと思います。

○委員長（北川勝義君） そんな、余りな、ちょっと佐々木さんな、するんじやったらええけどな、わしもキレそうになる。ほんま冗談話じゃのうて、言うんじやったら、あらかじめ委員の皆さん、私も含めてじゃけど、用意できてねえもんは次にしてくれとか、休憩時間の後にしてくれというのをお願いしようと思います。それで、次のときにまでそろえてくれえというのをお願いしよんで、どうしても図書館憲章が要られるんじやったら、図書館憲章を持ってきなさいというて、佐々木さん、僕に言うてください。ほんな僕もそれを言いますから。それ、別に三宅さんの肩を持ちょんでもありませんし、それから佐々木さんも、そう短絡的な、さっきから腹立ったもんで、そう勝手に帰る、見てくるというような話はせんようにしていただきてえと思いますんでお願いしますから。それまで……。

何か手を挙げよつたろ。違うたん。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（前田正之君） えっ。

○委員長（北川勝義君） あっ、違うたん。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（前田正之君） はい。さっきの資料の準備の話をして……。

○委員長（北川勝義君） 課が違うところから手を上げるけん、わし、また違うとき、ほんなら。

○委員（佐々木雄司君） 委員長、休憩とってください、時間来てますので。

○委員長（北川勝義君） 暫時休憩します。

午後2時5分 休憩

午後2時15分 再開

○委員長（北川勝義君） 再開します。

はい、三宅図書館長。

○中央図書館長（三宅康栄君） 大変お待たせして申しわけございませんでした。

先ほど御指摘いただいたもの、図書館の自由に関する宣言、こちらなんですけど、日本図書館協会が出しているものでございます。こちらのほう、大きな柱といたしまして4つございます。1番の基本なんですけれども、図書館は基本的人権の一つとして知る自由を持つ国民に資料と施設を提供することを最も重要な任務とする。この中に4つの柱がございます。

まず第1、図書館は資料収集の自由を有する。第2、図書館は資料提供の自由を有する。第3、図書館は利用者の秘密を守る。第4、図書館は全ての検閲に反対するというものになっており、こちらのほうを図書館の入り口に、この大きな4項目を掲示させていただいております。

済みません、佐々木委員さん、こちらでよろしかったでしょうか。

○委員（佐々木雄司君） はい、いいです。

委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） せんだっての委員会の中でインターネットの利用制限について御質問をさせていただきまして、開会中の委員会ということで、閉会中の内容にいたしましょうということだと今回の委員会に持ち越しになっているんですが、ちょうどこの中に指定管理制度導入にかかわる実績報告についてということで、先ほどお尋ねいたしました運営方針に沿ってのサービスの向上を図る上で御検討されていらっしゃるのと報告内容が出ておりますので、その段をおかりしまして、今読んでいただいた内容に照らし合わせて、インターネットの運用を公的な機関としてではなくて図書館に置いてあるインターネットとして、果たしてそれ合致する内容であるのかどうなのか、どのようにお考えになっているのかももう一度お聞かせいただいた上でこちらのほうの検討をしてみたいと思ひまして、それでちょっとお尋ねした次第でございます。お答えいただいでよろしいか。

○中央図書館長（三宅康栄君） はい。

○委員長（北川勝義君） はい、図書館長。

○中央図書館長（三宅康栄君） 御指摘ありがとうございます。前回のこちらのお話でもございました。その後、私たち図書館の職員も、図書館の利用者用のフィルタリングについて、規制についていろいろ勉強をさせていただいております。やはり、それぞれに関しまして長所、

短所がございます。しかし、私たちは図書館の職員といたしまして、利用される方の立場、さまざまな方向から検討が必要と考えております。いましばらく、こちらのほうを慎重に検討をさせていただけたらと思います。よろしくお願いたします。

○委員長（北川勝義君） よろしいか。

佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） もうしばらく検討しますとのことなのですが、今、既に、例えば第1、図書館は資料収集の自由を有するというので、1、図書館は国民の知る自由を保障する機関として国民のあらゆる資料要求に応えなければならない。2、図書館はみずからの責任において作成した収集方法に基づき、資料の選択及び収集を行う、その際ということで(5)まで書かれています。こういったものが著しく損なわれているということになれば、迅速にこの状態というものを更正化していくために物事を是正、收拾していかなければ、事態收拾を図っていかなければならない、私はこういったぐあいには思っておるんですが、いつぐらいにこの事態收拾に励まれるということでありましょうか。どのような方向性になるのか、その検討機関も、当然ながらそのところは疑義が発しているからこそ検討をされるんだと思いますから、その疑義が解消されるまでの期間というもの、そこにそういった今申し上げたような著しくこういったものに反する内容というものがそこに存在している可能性がある以上、いつまでも待つというわけにはいかないというところは御理解いただけると思うんで、大体これどのぐらいまでの時期にお考えになられているんでしょうか。

○中央図書館長（三宅康栄君） はい。

○委員長（北川勝義君） はい、三宅館長。

○中央図書館長（三宅康栄君） 御指摘ありがとうございます。こちらの検討なんですけれども、やはり本当にインターネットという目に見えない世界ですので、慎重に検討をさせていただきたいと考えております。どうぞ御理解いただきますように、よろしくお願いたします。

○委員（佐々木雄司君） 答弁になってない。

○副委員長（松田 勲君） 今出せれんから……。

○委員（佐々木雄司君） こっちの質問としては、いつぐらいまでの時期に、不十分があるならば、それを是正するのは当然のことなんだから、その是正する時期というのを迅速に出してくださいよという。

○委員長（北川勝義君） 図書館の関係で、今言われるインターネットのことを言われとんですけど、検討するというで、それじゃあ答えにならん言われとんで、いつごろまでに検討する、次回の委員会のとしまでは、いつどのようなことになる、検討をどのような時期になるというスケジュールというんですかな、その考え方というのを示してください。佐々木さん、それでよろしいですね。

○委員（佐々木雄司君） よろしい。

○委員長（北川勝義君） 他にありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） なければ、次の消防のほうへ移りたいと思います。

消防本部のことの地方自治法第180条の市長の専決処分と消防団の協力事業所の表示について、設定について何か質問ありませんか。

はい、佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） 済みません、消防長、これ事件が起きてるのは、この4月ですよね。

○消防本部消防長（木庭正宏君） 今年の4月。

○委員（佐々木雄司君） ですよ。10月8日に決まったので専決の報告をいただいているんですが、済みません、僕落ちてたらごめんなさい。この事故の報告ってしてもらいましたっけ。

○消防本部消防長（木庭正宏君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 消防長。

○消防本部消防長（木庭正宏君） 報告のほうはさせていただいておりません。申しわけありません。

○委員長（北川勝義君） 佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） 内容を拝見しますと、救急自動車——消防車ですか、救急車ですか、いずれにしても交差点内において搬送中の傷病者がいるということは、まさに救急活動が行われている最中の事故ですよ。ニュースになってもおかしくない。これが、何で所管する委員会に説明がなかったんですか。

○委員長（北川勝義君） はい、消防長。

○消防本部消防長（木庭正宏君） まことに申しわけありません。当然ニュースのほうにはありません。

○委員（佐々木雄司君） そう。

○消防本部消防長（木庭正宏君） はい。ニュースのほうになりました。とりあえず御一報だけということで、委員長のほうへは、電話でありましたけれども御連絡のほうをさせていただきました。それから、市長のほうへは、その起きた後に、早急に連絡のほうをさせていただきました。この間、長い間1年半余り、途中の経過等も本来ならば連絡させて、きちっとした形で報告させていただくべきでしたが、進捗状況が思わしくなかったというところもありまして、その連絡、御報告がおくれてしまいました。まことに申しわけありませんでした。

○委員長（北川勝義君） はい、佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） いえ、消防長、私のほうも、済みません、耳に届いておらんの私の責任の部分もありました。大変失礼いたしました。おわびをいたします。

○委員長（北川勝義君） 私のほうから、事故があったのは把握しております。それで、こねえ長うかかることはねえと思うて、大体普通だったらもう年度内に片がつくんですけど、今回は後から聞かせていただいたら、保険の対応、他責というんか、保険を使わせてもらうようなことがあって大変時間がかかったということで、今後は年度内処理すべきようにお願いしたいと思っております。これは専決なんで、そういうことで、御理解を皆さんに願いたいと思っております。これもニュースに出ることがあったり、皆全部の議員さんに知らせるといふ余りあれでなかったんでちょっと片手落ちがあったかもしれませんが、御容赦願いたいと思います。

他にありませんか。

○委員（澤 健君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、澤委員。

○委員（澤 健君） ごめんなさい。この議案なんですけど、どうこうという話じゃないんですけど、救急車がぶつかった場合、こういう場合って、やっぱりこちらに責任が発生するのかなというふうに思うんですけど、やっぱこれはこういうふうになったときは、道路交通法で決まるんですか。

○委員長（北川勝義君） 10、ゼロ。本来はゼロ、10じゃ。ゼロ、10。たしかゼロ、10。弁護士じゃろ。ちょっと消防長。

○委員（澤 健君） どういうことなんですかね、これ。

○委員長（北川勝義君） 消防長。

○委員（佐々木雄司君） あくまで優先じゃから。

○委員長（北川勝義君） ゼロ、10じゃろ、本当は。

○消防本部消防長（木庭正宏君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、消防長。

○消防本部消防長（木庭正宏君） あくまでも、緊急自動車には優先権というのが当然あるわけですが。

○委員長（北川勝義君） スピードが出過ぎとったから。

○消防本部消防長（木庭正宏君） あるわけですけども、やっぱりそれが絶対的だということではありませんので。

○委員長（北川勝義君） 話し合いじゃ。

○消防本部消防長（木庭正宏君） そのときの状況によつてのそれぞれの過失割合というのが決まるような形になっております。全国的な事例で見まして判例を見ましたときに、10、ゼロもあれば今回のような8、2もありますし、7、3とかというような場合もあります。ですから、その辺いろいろな判例を参考にしながら、保険会社さん同士が双方の主張するところを捉えて過失割合を決めるというような形で処理されているようでございます。

以上です。

- 委員（澤 健君） ありがとうございます。
- 委員長（北川勝義君） 青信号で行きようりゃ悪い。
下山委員。
- 委員（下山哲司君） 委員長、よろしい。
- 委員長（北川勝義君） 青信号で行きようりゃ悪いで。
下山委員。
- 委員（下山哲司君） これ3万5,200円というなら、相手方の分のあれをすんで、損害としたら、それプラス147万円損害があったんじゃない、うちに。
- 委員長（北川勝義君） そうじゃな、うちはな、瑕疵割じゃけえ。
- 消防本部消防長（木庭正宏君） 委員長。
- 委員長（北川勝義君） はい、消防長。
- 消防本部消防長（木庭正宏君） 147万円のうちの2割が赤磐市の損害ということになります。
- 委員（下山哲司君） じゃから、3万5,200円と147万円の2割が要ということじゃな。
- 消防本部消防長（木庭正宏君） はい、そうです。
- 委員（下山哲司君） 情報を書かんのじゃな、そういったときには。
- 消防本部消防長（木庭正宏君） 損害賠償をしたという相手方に対するという補償になりますので。
- 委員（下山哲司君） じゃけん、ここへ報告するときにああ、うちの分を何ぼ要ったというてから下へただし書きつけてえてくれりゃ聞かあで済むんじゃないけど。
- 消防本部消防長（木庭正宏君） はい、わかりました。
- 委員長（北川勝義君） これ、12月に出すんじゃない。
- 消防本部消防長（木庭正宏君） はい、そのとおりです。
- 委員長（北川勝義君） 議会の専決、議会で報告を出すわけじゃろ。
- 消防本部消防長（木庭正宏君） はい、そのとおりでございます。
- 委員長（北川勝義君） ほんな、今下山委員が言われた、聞くよりは、下山委員は総務委員じゃけん聞かんけど、聞くときに、報告じゃけりゃあれだけど、ちょっとそう書いて、メモ書きじゃないけど、ちょっと書いていただきゃあ。
- 委員（下山哲司君） 二十何万円が、委員長、要つとるということでしょう、別に。
- 委員長（北川勝義君） 要ということを書いてあげたらわかりやすいから。これには書けまあけど、この専決書には書けまあけど、その説明書があるが、説明資料に。
- 消防本部消防長（木庭正宏君） じゃあ、説明資料のほうをそういった形かで。
- 委員長（北川勝義君） そうしたら……。
- 委員（下山哲司君） それつけてもろうたほうが。

○委員長（北川勝義君） 今度は質問がのうなるから。

○消防本部消防長（木庭正宏君） はい。

○委員（下山哲司君） それだけです。

○委員長（北川勝義君） きょうはええこと言うたな、1個だけ。

○委員（下山哲司君） また、この次悪いことを言うけえ。

○委員長（北川勝義君） 他にありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） なければ、これで終わりたいと思います。

それでは、協議事項、その他、何かありませんか。

はい、下山委員。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 執行部のほうはやらないんじゃない、その他は。ないんじゃない。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 副市長に前に本会議場で質問をしとったんですが、時間の都合とあれで答弁をいただいてなくて、その後の委員会で報告をしてくださると、こういうことになっとったんですが、それもちよっと置き去りになっとったんで、ここでちよっと入札の件についての報告を、質問しとる事項についての報告をお願いしたいと思います。

○委員長（北川勝義君） あれじゃろ、熊山じゃろ。

○副市長（内田慶史君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、内田副市長。

○副市長（内田慶史君） 千躰地区の雨水ポンプ場建設工事につきましては、まず初めに、去る8月26日開催の議会の全員協議会におきまして、下山議員さんのほうから下水道事業団の入札の公募情報について知っているのかというような御指摘がございまして、私は担当部長からは聞いてないというふうな発言をいたしております。この発言に対しましては、私自身職責上、軽率、不適切な発言と反省をいたしているところでございましておわびを申し上げるとともに、今後担当部局との連携を図りながら、情報の共有を図りたいというふうに考えております。

この事業の執行につきましては、一定の水準の品質を確保する上で、土木、電気、機械等の分野の専門職員が赤磐市におきましてはいないということから、この短期的な事業の推進のみで職員の導入もできないというようなことから、地元調整を除きまして、工事の発注からその管理、監督、そして会計検査院の実施まで一連の業務を、市町村の技術援助をする公的団体でございます地方共同法人日本下水道事業団に業務を委託する方針といたしまして、本案件につきましては去る6月議会で可決決定をいただいているところでございます。その後、議論の中

で議員の皆様方からいただきました御意見を踏まえまして、下水道事業団に対し、地場産業育成の観点から工事の分割と市内建設業者の入札参加につきましても、調整池の分割につきましても可能な部分での分割はいたしておりますけれども、鉄筋構造物の築造でございまして水密性を求められるということ、またこれに加えて、JRの山陽本線に隣接、近接していること、また国の一級河川の吉井川の保全区域内といった特殊条件から一体的な施工が望ましく、普通の工区割りにつきましてもなかなか分割発注は困難であるというふうな見解でございました。

次に、本工事の市内業者の入札参加資格につきましても、工事の等級によりましてランクづけにおきましても、工事費が約3億6,000万円でございます、市内業者単体ではそのランクには該当しないということから、共同企業体での入札参加の要請を下水道事業団に対していたしております。この共同企業体では、代表者以外の要件において参加が可能、すなわち構成員で市内業者8社が参加可能ということでございました。その後、下水道事業団で一般競争入札を公募いたしまして、9月25日に入札を執行しております。応募につきましても、2つの企業体の参加がございまして、これは大森工務店と大浦建設特定建設企業体が3億442万8,000円で落札をいたしております。これは消費税別でございます。

○委員長（北川勝義君） もうええがな。

○副市長（内田慶史君） 市内業者の参画はございませんでした。

以上でございます。

○委員長（北川勝義君） させなんだんじゃが。

下山さん、よろしいか。

○委員（下山哲司君） はい。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） きょうは持ってきてねんじゃけど、そのときに下団が出しとる入札要綱の資料を皆持ったんじゃけど、あの資料に赤磐市が参加ができるということ自体が不思議な。あれで、市長が赤磐市のJVの人が8社入る。8社もできるじゃがな。8社でするんではない。日本語は、するとできるは違うんじゃからな。できるというたらさせてもらえんことだ。じゃから、赤磐市から応札がない。8社を軸にして、8社のJVでするというんならわかる。

○委員長（北川勝義君） もういい。下山さん、次にこれももっとぴちっと正確に報告してもらやえかろう。

○委員（下山哲司君） わしは11月のあれに書くようにしとるから。

○委員長（北川勝義君） ぴちっと11月の委員会に出す。

○委員（下山哲司君） ほったら間に合わんのじゃ。

○委員長（北川勝義君） 11月の。まあそれはすりゃあええ。

○委員（下山哲司君） 広報に書くの。だから、今まで本会議で答えてもろうた、ここの委員会で答えてくれたことを僕は書いて配るんだから、全戸へ。

○委員長（北川勝義君） よろしい、わかりました。よろしい、よろしい。

○委員（下山哲司君） 私の感じたことで書かせてもらってるから、もう副市長として今後やっていただかないけんことは、前にも言うた。

○委員長（北川勝義君） ちょいちょい、ちょっ、いや、もうええって、そりゃああんたに…

○委員（下山哲司君） 政治に携わっとる人なんだから、3人は。職員さんと同じ物の考え方で物事をやってもろうちゃいけんということは前にも言うとなで。

○委員長（北川勝義君） はいはい、わかりました。

○委員（下山哲司君） 今後どうするかだけ答弁ください。

○委員長（北川勝義君） もう、実は本当のこと言うて、9月のときの葬式の日、誰の葬式なというたら、高齢者八十何ぼのおばあさんのときの葬式の葬式会場へ2人の人が、何と用事がある言うた。下山哲司さんが言よったと、こういう言い方したんで、聞いとると言うて、せえでお願いもしとると言うて言うて、言いました、私は、2社の業者に。そしたら、結果的に北川さん、結果的に入れちやると言うて、入れるんだけど入れれん、入れんのんじゃけんなと、こういう言われたわけ、感想が、言われたわけ。せえで、僕も総務、じゃから僕今総務じゃから余り言わん。産業だったら、これは分離発注すべきだと思うて、確かに会検を受けるとか、いろいろそれは執行権だから、執行権には僕は介入してどうこう言うつもりはねえけど、やはりこれはうそとか本当とか話じゃのうて、結果的にはやっぱりやるんじやったら赤磐の仕事をとってもらえるように、下団でもしたときにびちっと条件をつけてもらいてえんというのは、僕と下山さんでも、これは僕は嫌いなんじやけど、このことだけ合ようりゃ、このこと言うちやおかしいけど、そうしてもらいてえという、たまたま市長は言われたことは、副市長の言うたんは間違いじゃねえ、今言ようることは。入ることができると、入れるとは全然違うから、もうそこらのことを、やっぱり赤磐市が何ぼ仕事とってくれても、ようなっても、結果的には赤磐に関係ねえ、昔の山陽で最終処分場しょうって知った業者は1社しかおらなんだというようなことになるおそれが多いんで、ぜひ今後気をつけてもらいてえと思いますんで、私もここへおられる方も皆市民も関心があるんで、11月のときの委員会のときにどのような流れでこうなった、下山さんはよう研究して知っとられるんじやけど、どう流れがあった、書く書かんのことは別で報告願いたいと思いますんで、それについてどうこう反論して言うという気持ちもねんで、流れだけちょっとお願いしてえと思いますんで、よろしゅうお願いします。

他にありませんか。

○委員（下山哲司君） 反省の弁は。

○委員長（北川勝義君） 反省は、もうえかろう、下山さん。

○委員（下山哲司君） いやいや。

○委員長（北川勝義君） 反省の弁というて。反省というて言われた、反省っておかしいよ。ちょっともうよろしい。

佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） 済みません。私のほうからその他の項目ということで、お配りいただきました10月25日の山陽新聞、赤磐初の認定こども園にという内容でありますけども、この中を拝見いたしましたら、統廃合されて一つの拠点になる施設は、従来が保育園であることを踏まえて保育所型にするとの方向で検討するという事なんですが、市長、うち赤磐は教育に力を入れていくんですよね。子育てという保育所というような考え方というのも重要であるんですけども、市長のお考えの中で、教育というものが最重要課題であったように思うんですが、にもかかわらず、これ何で保育所型なんですか。幼稚園型にして教育を推進して、そのところに保育所の子育ての機能を持たすという考え方じゃないんですか、これ。何でこういう話になっているんです。あくまでこれ厚生委員会で示したということで、それに対して市の方針がどうか示されているというふうには書かれていないので、ちょっとミスリードしているような新聞記事なのかなというふうにも思っているんですけども、逆に市の方針が書かれていなければ、同調しているからあえて書かれていないというような、そういう可能性もあるので、一回ちょっとお尋ねをしたいと思ひまして、この機会をお願いいたします。

あともう一件なんですけど、そろそろ12月議会が迫ってまいりまして、12月議会までにあと11月の委員会が間に、その休会中ということになったらあるだけです。そろそろ予算編成の話になっていくんだと思うんですけど、去年確認してみますと、行政改革のさなかでどういった行政改革方針をするんですかということで、3月の議会、もうぎりぎりにならなかつたら方針が出てこなかったような状態で、こちらのほうも余りその準備をすることができずに、あれよあれよということで当初の予算案に向き合ったような、そういった状況なのかなと思ひているんですけど、これどうなんですか。そろそろ今の方針だけでも行政改革を進める、また今までの答弁を拝見いたしますと、さらに加えて努力をしていくんだという答弁をいただいているんですけど、その御答弁どおりに行政改革が反映された予算編成になるのかならないのか、事前に私は知りたいと思ひているんですけども、この11月、次の委員会の折にでも、この総務文教委員会というのは行政改革を所管している委員会でもありますので、その観点でどういった予算編成を考えていらっしゃるのか、その考えだけでも事前に示していただくということできないですかね。市長のお考えをちょっとお尋ねしたいと思います。

○委員長（北川勝義君） 市長。

○市長（友實武則君） 2点、お尋ねがありました。

まず、認定こども園がなぜ保育所型なのかというお尋ねです。これは、認定こども園の国が示した運営の形として何種類かの形が示されております。その中の保育園型という運営方針を

目指していきたいということを表明させていただいておりますが、その保育あるいは幼稚園教育の中で赤磐市が目指す教育方針、これは保育園であろうが幼稚園であろうが実施していくように考えているところでございます。ですんで、この中のカリキュラム、これについてを決めたものではありません、運営方針です。

それから、2点目でございますが……。

○委員長（北川勝義君） いや、地元からじゃろ。

○委員（佐々木雄司君） 市のほうとして、それやってる……。

○委員長（北川勝義君） 検討委員会は地元じゃろ。地元が出とんじゃろ。地元がしてくれるじゃろ。

○市長（友實武則君） よろしいでしょうか。

2点目の平成27年度予算の編成方針でございますが、これは中身の積み上げたものは、どうしても年明けの議会前に内容についてはお示しすることになるかと思いますけども、これを組み立てていく上での基本方針、これについては、何らかの形で早いうちにお示しすることができればと思っておりますので御理解いただければと思います。

以上です。

○委員（佐々木雄司君） はい、委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） 2件目のその分というのは、ぜひお力といたしますか、發揮していただければいいなと思います。ぜひよろしくお願いします。

1件目の運営方針の、市長はお話をされたんですが、要するに子育て支援課がおやりになれるのか、予算ですよ、予算の受け持ち、子育て支援課がイニシアチブをとって考えていくのか、教育委員会が予算のイニシアチブをとって考えていくのか、その性質があらわれてくると思うんですね、該課が違うわけですから。担当する所管が違うわけですから、どっちが予算を預かっていくんですかというような話になりますよね。

○委員長（北川勝義君） 認定こども園自体が……。

○委員（佐々木雄司君） いや、予算は一元化されるんですよ。

○委員長（北川勝義君） どっちが答える。

○委員（佐々木雄司君） だから、どっちかが……。

○教育長（杉山高志君） ちょっと勘違いされとる面がありますよね。

○委員長（北川勝義君） じゃ、教育長が答える。

○委員（佐々木雄司君） 何なん、勘違いというんは、失礼な。

○委員長（北川勝義君） 教育長。

○教育長（杉山高志君） 幼稚園型とか保育所型というのは、ここへも書いてあるとおりで、今の保育所の統合された形で保育園に教育機能をつけていく、一緒にしていくのを保育所型、

幼稚園に保育所機能をつけていく、現にある幼稚園につけていく、これを幼稚園型というだけで、現在進めていこうとしているのは、中身については幼稚園型、保育所型で、区別はありません。

○委員長（北川勝義君） 教育長、じゃから厚労省がつけるんじゃろうがなというて聞きょんじゃが、そう答えりゃえんじゃねんかな。あんたが答える必要がねんじゃねえかというてわし言うんじゃけん、それでいいと。教育長が答える話じゃねえわ。

○教育長（杉山高志君） もうそういう名前をつけておるだけであって。

それから、現認定こども園の運営は、全て市であります。

○委員長（北川勝義君） いや、これは……。

○委員（佐々木雄司君） 予算の所管が違えば性質が変わりますよねという……。

○委員長（北川勝義君） 違う違う、違う。ちょっと佐々木……教育長、教育長が今答えられたんじゃけど、純粋に保育園じゃから、厚労省の所管で幼稚園の機能も持たすだけのことで、文科省の所管じゃったら教育長が答えられりゃえんで、はっきり言って、これは報告して幼稚園型になるというから、この新聞を配ってくれた奥田次長、親切で配ったんじゃろ、これは。幼稚園型も含まれますよというて親切に、これ。我々のところで審議することは、本来はねえ、厚生委員会でこれが間違うとったら、今言うようなこと、どっちならというて聞きょつたら、厚生委員長は今傍聴され、怒られらあ、厚生委員会せずに。

○市長（友實武則君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい、友實市長。

○市長（友實武則君） 少し補足させてください。長い年月を経て、認定こども園というものが世の中に出てき始めました。これは佐々木委員が心配されてるように、文部科学省と厚生労働省の、いわゆる縦割りの方針がなかなか融合しなかったということがあります。国の子育て支援制度の中で認定こども園を推進しようということで、この両省の調整を内閣府がとって、内閣府がこの基本方針を定めながら地方へ情報を流し、指導をしてきているものでございます。その内容については、縦割りにならないよう、これから独自に子育てを支援していこうという国の大きな方針に従ったものですので、これを本来ならきちんとした制度は次年度からスタートするものですが、これから赤磐市はそれを、少し早いですが先取りして実施していこうということで目標を定めたものです。これから教育委員会も市長部局もこの国の方針はもとより、我々赤磐市の独自の方針をもって子育てにしっかりと取り組んでいきたいということをお願い申し上げます。

以上です。

○委員長（北川勝義君） はい、佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） もうこれで終わらせますけど、いや、そこら辺の経緯は存じ上げているつもりなんです。要するに一元化された予算というのが、今までは保育園に関しては厚生

労働省のほう、幼稚園のものに関しては文部科学省の所管する予算の中から補填、補足されているような状態であります。また、そこら辺の権限関係も法律の権限また運営規則、こういったものもそれぞれが持っていた。これを一元化するとともに、予算関係も一元化しましょうという話なんですけど、うちの赤磐にそこら辺の予算が入ってきたときに、子育て支援課が所管するのか、教育委員会が所管するのかで、その所管する該課の性質というようなものが運営にあらわれてまいりますよねと。市長は教育を推進するということなんですから、私がすっと腹に落ちたなと思うのは、幼稚園として幼稚園の教育委員会のほうに、予算をその一元化されたものを落として幼稚園型のを新設するわけですから、ここのところは白紙の状態から発生するので、幼稚園型にさせていただいて、そこるところに子育ての保育所という、保育園というような物の考え方を入れ込んでいくっていう話であれば、市長の方針に僕は物すごく合っているのかなと思ったんですけども、それが何か保育所というか、子育て支援のほうに何か一元化されるようなものが窓口になっていくんだっていうことになれば、子育てメインで、子育ての反面、教育をやっていくのかなというふうになれば、何か方針と違うのかなというふうに感じたりしましてね、そこら辺どうなのかなと思ってお尋ねをただけで、特にほかの所管する委員会に踏み込んだつもりはないんですが。

○委員長（北川勝義君） 佐々木委員の言われようの幼・保一元化の絡みの中で保育所にできたところが幼稚園になったところがあります。その中でいろいろな考えで、幼稚園型もつくった、保育所の一元化で認定こども園でやっていくという国の制度とか、いろいろのこともあると思いますが、一応厚労省の管轄のほうで補助金が出てくるのが重立ってのことじゃと思います。

それと、所管が厚生委員会のほうの所管なんで、佐々木委員の考え方としてすばらしい考え、こういう意見があるというのを要望というんか意見を聞かせていただいとくということできとどめさせてもらいます。執行部のほうは、それを肝に銘じて聞いていただいて、これであれにさせていただきたいと思うんです。これに、よその委員会のことは踏み込むような形にはなっては大変な失礼なことなので、よろしくお願いします。

他にありませんか。

○委員（澤 健君） 済みません。地域防災計画持ってこいって言われたんですけど。

○委員長（北川勝義君） また持ってきてください。僕が言う、また持ってきてください。また持ってきてください、いつでもよろしいから。本庁はいつでもよろしいから。

○委員（澤 健君） いや、持ってきた、持ってきた。

○委員長（北川勝義君） ああ、それは……。

○委員（澤 健君） それでいいわけ。

○委員（下山哲司君） 委員長、ちょっとだけ。

○委員長（北川勝義君） はい、下山委員。

○委員（下山哲司君） 今の関係なんだけど……。

○委員長（北川勝義君） 支所で、ちょっと待って、支所でよろしかろう。それを言うとかにや……。

○委員（下山哲司君） 就学前教育と、それから保育園の先生と幼稚園の先生の資格、その辺の問題はどねえになるんか、ちょっとその辺だけ。

○委員長（北川勝義君） 今は免許皆持つとるから問題ねえん。

○委員（下山哲司君） 両方。

○委員長（北川勝義君） 幼・保一元化で、皆保育所と幼稚園で持つとるから。

○委員（下山哲司君） どういう関連の人になるんかな。

○委員長（北川勝義君） 藤井課長。

昔はあったけど、今は問題ない。

えれえ、手を挙げたら言えやあ、おめえ……。

○教育総務課長（藤井和彦君） 認定こども園になりまして、条件といたしまして、3歳以上は幼稚園の教諭免許と保育士の資格の両方を持っていくことが望ましいとなっておりますけれども、いずれでも可ということになっております。

それから、満3歳未満は保育士の資格が必要となっております。それで、今の現状といたしましては、どちらも保育園にしましても幼稚園につきましても、両方の資格を持っているというふう……。

○委員長（北川勝義君） いやいや、ちょっと藤井さん、ちょっと物すごい丁寧じゃけん、今のずっところ何十年前からというたら、もう幼・保、両方もうほとんど持ってねえという者じゃない。ほとんど持つとる者が来りょうが。

○教育総務課長（藤井和彦君） 今現在持っております。

○委員長（北川勝義君） いや、ほとんどの人が持つとろう。

○教育総務課長（藤井和彦君） はいはい。

○委員長（北川勝義君） ほとんどの人がもらえるんじゃないもん。昔じゃったら、幼稚園の先生とか……。

○委員（下山哲司君） もう一つ。

○委員長（北川勝義君） はい、下山さん。

○委員（下山哲司君） 今、その望ましいという部分がちょっとあれなんじゃけど……。

○委員長（北川勝義君） 持つとんじゃいやあ……。

○委員（下山哲司君） 就学前教育といたら幼稚園の先生の仕事じゃが。だけど、僕も一元化に携わって、そのときに説明聞いたんだけど、保育園であって就学前教育も上組の子はしますと、きちっと同じように幼稚園で、そういう教育をするから、そのときに幼稚園の先生の資格は必要ないんかというて聞いたかったんだ。

○委員長（北川勝義君） 昔はあるけど、今はもうみんな持つとんじゃ。

○委員（下山哲司君） いや、うちのほうになったときに、両方取ってくださいって両方取らせとる。

○委員長（北川勝義君） 両方取らんでもええ。大学か、もう短大ですぐ取れるようになってある。

藤井さん、それは難しゅう言わんで、昔の今退職した75とか70という人は片方しか持ってなかったの、ようけあるん。今はどこの大学とか短大出たら、皆資格を両方取る。これがもう全員の免許をもらうてあるん。また違うというて言よったら、違うて、聞いてみい。就実へ行っても、今行った者は皆取ってきとる。今入っとる吉井、この赤磐の人が片方しか持ってねえという人はありやしません。

○教育総務課長（藤井和彦君） はい、委員長。

今現在、幼稚園と保育園の交流もしておりまして、採用試験につきましても両方の資格を持っていることを条件にしております。

○委員長（北川勝義君） それじゃなかったら、人事異動ができんがな、保育所の者は保育所、幼稚園は幼稚園になるが、交流しようるわ。

○委員（下山哲司君） じゃけん、そうじゃ言うてくれえ。望ましいというて言うたりするから、ちょっと不安があるんです。よろしいよ。

○委員長（北川勝義君） それでは、教育長、閉会ということで御挨拶をお願いします。

○教育長（杉山高志君） 本日は、当委員会のために各部署のほうから進捗状況等の報告に対しまして慎重に審議をしていただき、また御提言等もいただきました。11月の総務文教常任委員会に備えての資料準備や平素の私たちの業務、それから補正、来年度に向けて本当に動き出す時期でもあります。しっかりやってまいりますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

○委員長（北川勝義君） 御苦労さんでした。

午後2時52分 閉会